

## 【資料】

## 戦後熊本における「総合大学」設置運動

## 「熊本大学期成会資料」の紹介

上野平 真希  
三澤 純

## The campaign for the establishment of a university in postwar Kumamoto

Maki UENOHIRA  
Jun MISAWA

## 要旨

本稿は、熊本大学六〇年史編纂室所蔵の「熊本大学期成会資料」の中から、「熊本総合大学創立回顧談話会速記録」を紹介すること(第二章)、「熊本大学期成会資料」目録を掲載すること(第三章)、さらにこれらに問題を付すこと(第一章)の三点を目的とする。

本稿で紹介する「熊本総合大学創立回顧談話会速記録」(熊本大学期成会資料A―二―三)は、一九五一(昭和二六)年一月九日に開催された標記談話会の記録を、熊本大学期成会がまとめたものである。「速記録」は、「熊本大学三十年史」でも利用されているが、直接的な引用はなされていないため、今回、改めて、原本を元に原稿を作成し直し、新たに注釈を付して、全文を紹介するものである。

「速記録」には、熊本医科大学を中心に、第五高等学校等、当時、熊本に存在していた高等教育機関を統合して、「総合大学」を創設し、帝国大学への昇格を目指すそうと熱い運動が展開されていた頃のこと、その生々しさが興味深い。

また「熊本大学期成会資料」は、熊本総合大学期成会以来、作成されてきた事務資料群である。新制国立大学の発足時、全国各地にも、同様の組織が立ち上げられていたが、その事務資料が伝来しているケースは極めて珍しいため、ここに目録を公開し、今後の高等教育史研究に資するものである。

キーワード：熊本大学、熊本総合大学、熊本総合大学期成会、国立大学

## 一、解題

## (1) 本稿の目的

一九四九(昭和二四)年五月三十一日、国立学校設置法が公布され、国立大学六九校が一齐に誕生した。これにより、戦前から官立として設置されていた帝国大学や単科大学も、全て四年制の新制国立大学に生まれ変わったのである。その後、国立大学は、二〇〇三(平成一五)年七月一六日に交付された国立大学法人法により、二〇〇四年四月一日から国立大学法人が設置する大学へと移行したが、現在ある国立大学の大多数の大学が、「一九四九年」を、その歴史の大きな節目とすることに変わりはない。

今年、二〇〇九年は、国立大学のうち、最も長い歴史を持つ大学が創立六〇周年を迎える年ということになる。熊本大学もそのうちのひとつであり、そのため現在、熊本大学では創立六〇周年記念事業を展開し、二〇〇八年四月からは六〇年史編纂室も活動を開始している。本稿は、公開・公表されるものとしては最初の編纂室の成果物として、まず「熊本総合大学創立回顧談話会速記録」を紹介し(第二章)、次

にこれを含む「熊本大学期成会資料」の目録を掲載し(第三章)、加えてこれらに若干の解題を付す(第一章)ことを目的としている。<sup>①</sup>

本稿において紹介する「熊本総合大学創立回顧談話会速記録」(「熊本大学期成会資料」A—二—三。以下、「速記録」と「本資料」という二つの言葉を区別無く用いて略称とする)は、一九五一(昭和二六)年一月九日に、熊本大学法文学部内で開催された談話会の記録を、熊本大学期成会募金事務局がまとめたものである。「速記録」は、『熊本大学三十年史』<sup>②</sup> 編纂過程でも注目され、筆耕本も作成されている。<sup>③</sup> しかし完成した『熊本大学三十年史』(以下、『三十年史』と略称)においては、これを叙述のベースとしては利用しているが、直接的な引用はなされていないため、今回、改めて、原本を元に原稿を作成し直し、新たに注釈を付して、全文を紹介するものである。

戦後、国立大学が設置されていく政治過程については、羽田貴史『戦後大学改革』<sup>④</sup> が最新の成果を体系的に示し、熊本大学に関する個別的な動きについては、前掲『三十年史』が詳細な分析を行っているため、この問題に関する背景説明は、これらに譲り、ここでは「速記録」を読む際に前提となる事項を解説し、その上で「速記録」で語られている内容の諸特徴を抽出することにした。

## (2) 「速記録」の前提

まずこの座談会の出席者についてである。次頁の表は、座談会への案内状送付者と参加者をまとめたものである。これによれば、全出席者二一名の内訳は、熊本県庁及び熊本大学期成会関係者三名、政府関係者一名、熊本大学教職員一六名、その他一名となる。熊本大学期成会については後述するが、熊本大学教職員については、その前職からさらに分類してみると、旧熊本医科大学関係者二名、旧第五高等学校関係者五名、旧熊本工業専門学校関係者三名、旧熊本薬学専門学校

関係者二名、旧熊本師範学校関係者四名となる。<sup>⑤</sup>

次に、座談会の題目が「熊本総合大学」となっていることについてである。これは現熊本大学設立の経緯と極めて深く関わる問題であるため、『三十年史』を踏まえつつ、若干、検討を加えてみたい。

戦後初めて、熊本県内の高等教育機関の今後のあり方を論議したのは、一九四五(昭和二〇)年二月一〇日に、熊本県議会で行われた中野雅城議員の一般質問であったという。<sup>⑥</sup> この質問の中で、中野は、熊本県はこれまで長く農業県・教育県と称せられてきたこと、今後この二本柱を「県治ノ根本方策」に据えなければならぬことを主張した上で、現状を「農業県デアル熊本県ニ高等農林学校ガナイ、(中略)教育県ニ文理科大学・師範大学ガナイ」と描いて見せ、「即チ我が熊本県ハ、農業県・教育県ト称セラレテ居リナガラ、実ガ拳ツテ居ナイ、有名無実、ソレガ我が熊本県ノ姿デアル」と嘆くのである。このような現状分析から導き出される、中野の結論は、「茲ニ大イニ政治的手腕ヲ發揮シテ高等農林学校或イハ師範大学、文理科大学ノ誘致ヲ図リ、高等工業ノ大学昇格ヲ図ルガ宜シイ」というものであった。<sup>⑦</sup> この質問に対し、平井章熊本県知事も「高等農林学校等の誘致については皆様と共にその実現に努力を致したいと考えている」という趣旨の前向きな答弁を行っているが、この段階では、その時点で熊本県内には存在しない諸学校を誘致・新設する発想はあっても、県内に現存する諸学校をまとめて、「総合」化する発想は存在していない。

戦後の新しい教育行政の展開に伴って、「総合」化の発想が生まれるのは、翌一九四六年に入ってからであり、次の新聞記事は、熊本県内においても、その発想を実現するための運動体が結成され、活動を開始していることを伝えている。

学都熊本市の実現を計ろうと目下、熊本医大の帝国大学昇格運動が市内在住の有識者間に進められている。学制改革に関する教育

〔表〕 創立回顧談話会案内状送付者・参加者

区分	氏名	役職（設立以前）	役職（設立以後）	案内	参加
学外 及び 期成会	橋爪 清人	熊本総合大学期成会事務局長 熊本県副知事	熊本県副知事	○	○
	澁谷 保	熊本県総務部長	(不明)	○	×
	大久保勢輔	熊本県議会議長	同左	○	×
	佐藤眞佐男	熊本市長	同左	○	×
	大久保武雄	海上保安庁長官	同左	○	○
	福田 源蔵	元熊本中学校長 熊本大学設置募金事務局長	熊本大学設置募金事務局長	○	○
高野 作	熊本県教育長総務部学務課 熊本大学期成会	同左	○	○	
教 員	鰐淵 健之	熊本医科大学教授 熊本医科大学長	熊本大学長	○	○
	竹屋 男綱	熊本医科大学教授 (体質医学研究所長)	熊本大学体質医学研究所長	○	×
	大原 英一	第五高等学校教授	熊本大学理学部教授	○	○
	落合 和男	第五高等学校教授	熊本大学理学部教授	○	○
	松本 唯一	熊本工業専門学校校長	熊本大学理学部長	○	○
	吉田 弥七	熊本工業専門学校教授	熊本大学工学部教授	○	×
	広本文四郎	熊本工業専門学校教授	熊本大学理学部教授	○	○
	四宮 知郎	熊本工業専門学校教授	熊本大学工学部教授	○	×
	山田 昌司	第五高等学校教授	熊本大学法文学部助教授	○	○
	石坂 正蔵	第五高等学校教授	熊本大学法文学部助教授	○	○
	山下 重輔	熊本師範学校教授	熊本大学教育学部教授	○	○
	藤田 穆	熊本薬学専門学校校長	熊本大学薬学部長	○	○
	酒井 亮次	熊本薬学専門学校教授	熊本大学薬学部教授	○	×
加来 天民	熊本薬学専門学校講師	熊本大学薬学部教授	○	×	
葛谷 隆正	熊本師範学校教授	熊本大学助教授	○	○	
事 務	有田 文雄	熊本医科大学所属	熊本大学工学部事務長	○	×
	荒木 信義	第五高等学校事務官(～S23) 熊本薬学専門学校事務長(S23.10～S24)	熊本大学会計課長	○	○
	牧 奈良市	第五高等学校所属	熊本大学理学部事務長	○	○
	武田 歳太	熊本工業専門学校所属	熊本大学厚生課長	○	○
	中本 瀧雄	熊本師範学校所属	熊本大学法文学部事務長	○	○
	美作小一郎	熊本師範学校教授兼庶務部長	熊本大学事務局長	○	○
	古閑 文夫	熊本医科大学所属	熊本大学庶務課長	×	○
その他	下田 曲水	熊本高等工業学校嘱託 (『熊本高等工業学校沿革史』 編纂委員)	(不明)	○	○

「熊本大学期成会資料」A-23「熊本総合大学創立回顧談話会速記録」と同綴の開催通知送付の何等より作成。  
\*大久保勢輔県議会議長は代理人出席。なお、本文中では後から参加予定となっているが、実際に参加したのかについては不明。

委員会の草案も米教育使節団来朝の時、すでに発表され、中等学校以上の学校がすべて総合、または単科の大学となり、高等学校の大学予科変革が近く行なわれるとすれば、当然、熊本高専は工業大学に、五高が何かの大学予科に転進しなければならぬことは必然である。この際、熊本医大を中心として五高を法文科、工専を工科、また石坂前市長（熊本市第一二代市長の石坂繁のこと——三澤注）が目下画策している宮崎農専を是が非でも、熊本市に誘致し、これ等を打って一丸とする総合大学を、熊本城内の現医大の敷地を中心として創設しようというのが運動の目標で、提唱者は永井知事、小宮医大市長、本島五高校長とそれに石坂前市長等で、これにつき大学当局では次のように語っている。（後略）<sup>9)</sup>

ここで述べられているのは、熊本にある高等教育機関が個別に単科大学となったり、別の大学、例えば九州帝国大学の予科になって、その従属的存在となったりすることを憂慮した熊本県・市の政界が、医大を中心に、これらを統合し、「総合大学」を創設することを目的として、この運動を推進していたことである。そのための重要な柱が、宮崎農林専門学校を熊本に誘致することであったのであり、これは「農業県・熊本」の将来のためにも「是が非でも」実現されるべきこととして位置づけられていたのである。

この頃、「熊本県内に総合大学を」という願いが、県政界のスローガンになっていたことは、当時の新聞の見出しに、連日、「総合大学」の文字が躍っていることから察することができる。一九四六（昭和二一）年一月四日、熊本県議会に「一大構想の下に総合大学設置に絶大の努力を払はれたし」という意見書が提出されたこと、一九四七（昭和二二）年七月一日、熊本市議会が国立総合大学設立建議書を満場一致で採択したことは、このような県内世論の熱意の産物であったのである。こうして「総合大学」という言葉は、教育行政の分野だ

けではなく、広く熊本県地域の将来構想を描く際のキーワードとなっていたのである。<sup>12)</sup>

このようにして、一九四七年七月二二日に、熊本総合大学期成会が結成された。熊本県議会でも、七月二五日に、「早急に本県に総合大学を設置されるよう機宜の方策を講ぜられたい」旨の建議案が満場一致で採択され、直ちに国会に対して請願書が提出されている。<sup>13)</sup> 本資料が作成される契機となった「熊本総合大学創立回顧談話会」は、この時の運動当事者たちが、その熱気が冷めやらぬうちに、自らの記憶を記録に留めておくために開催されたものである。

### （3）「速記録」の骨格

「速記録」から読み取ることができる、最も重要なことは、熊本総合大学期成会の活動が大大に前期と後期とに分かれること、その画期となるのが、一九四八（昭和二三）年六月二二日に、文部省が一府県に最低一大学を設置することを支柱とする「国立大学設置一原則」を発表したことであるという点である。このこと自体は、これまでもよく知られており、特に目新しさはないが、熊本の実態を活写した本資料の内容が持つ歴史的価値はやはり高いと言わなければならない。前期は、一年足らずの、短い期間であるが、運動が最も熱気に満ちていた時期であった。その熱気を支えていたものが、「速記録」中の福田源蔵の発言（正確には、談話会に欠席した大久保勢輔・熊本県議会議長のメモの代読）によって判明する。即ち、「昭和二十二年六月ごろと思う、総合大学十校を日本に必要とするので、あと三校を新たにつくるといいうわさがあった。その三校に割込まなければならぬという情報が東京方面からとどいた」（本稿二二頁）という発言である。この時期の「総合大学」という言葉は、「帝国大学」と同じ意味で用いられていたから、この「情報」は、戦前に設置されていた、いわゆ



る七帝大に加えて、あと三つの総合大学が作られる方向性であり、この三つの中に何とか熊本が割り込まなければならぬ、ということの意味していた。この競争に、金沢・熊本・岡山・新潟・広島等の各県が名乗りをあげ、激しい運動に発展していったのである。この発言は、熊本総合大学期成会が「総合大学」という名称を織り込んで、一九四七年七月二二日に結成されることの歴史の意味を見事に説明することになる。

「速記録」からは、こうした地元政界中心の運動の活発化に対して、各高等教育機関の教官たちの足並みが揃わず、運動体の側がイライラしている様子もリアルに何うことができて興味深い。実際、戦前、熊本県選出の国会議員として、立憲民政党系の内閣で数多くの閣僚経験を持ち、当時は政界を引退していた安達謙蔵は、後に熊本大学の初代学長となる鰐淵健之（当時は熊本医科大学長）に宛てた一九四七年六月二十九日付書翰の中で、

熊本医大を中心として当地に総合大学建設之事、文部当局は希望し居るも、地元の各校長・教授連の熱度低調との評あり、事実二有之候哉如何。老齡何事をも為し得ず、遺憾此事に有之。<sup>1)</sup>と述べていた。

結局、この方向性が実現されることはなく、先述した文部省の一一原則が発表され、運動は目に見えてトーンダウンしていった。談話会では、後期のことも話題になってはいるが、やはり参加者の思い出は、熱い運動を繰り広げた前期に集中しているらしく、後期の扱いはかなり軽いものになっている。

#### (4) 「熊本大学期成会資料」について

ところで、本稿第三章では「熊本大学期成会資料」目録を掲載するが、「速記録」がこの中に含まれていたことが示すように、これは熊

本総合大学期成会に端を発する事務資料群である。熊本大学期成会は一九六〇年頃に熊本総合大学期成会から名称変更し（その後も、二つの名称は併存している）、一九四九年一月の熊本大学開学以後も、熊本大学への支援活動を続けた（一九六一年に解散）。『三十年史』は、期成会の活動を、募金による資金援助活動を中心に略述しているが、これを読むと、現在の熊本大学の成立基盤には、県内各地をはじめ、遠く海外からの募金によって賄われたものが数多く流れ込んでいることが分かり、改めて驚かされる。

図版は、筆者（三澤）の研究室にある書架に貼り付けられた金属製ラベルである。個人的なことになるが、この書架は、筆者が一九九九年四月に熊本大学に赴任した時に、前任者の研究室に備えられていたものである。筆者は、

二〇〇〇年三月にその研究室から引越す際、古い木製書架なので廃棄しようとも考えたが、このラベルが気になって、現在の研究室に持ってきた（当時は、熊本大学期成会のことには全く知らなかった）。

このようなラベルが貼られている物品や図書が、現在でも、熊本大学内のあちこちに存在しているは

図版 「熊本大学期成会」のラベル



(文学部三澤研究室で撮影)

ずである。それどころか、『三十年史』やその基となった期成会資料を見ていると、期成会が音頭をとって集められた募金で校舎建設までがなされていたことも分かる。国立大学各々は、法人化を機に、「地域貢献」「地域連携」を声高に叫び始めたが、少なくとも熊本大学の場合、このように「地域」によって作り上げられた側面があることを忘れてはならないと思う。

今回、熊本大学六〇年史編纂事業がスタートし、筆者もその任務の一端を担うことが決まった時、最初に手がけた仕事の一つが、この「熊本大学期成会資料」の整理であった。その作業を進めるうちに、これは、熊本県内に保存されていたものが、一九七一年に大学へ寄贈されたものであること、また全国各地の国立大学にも、同様の組織が立ち上げられていたが、その事務資料が伝来しているケースは極めて珍しいこと等が分かってきた。今回の目録作成と公表を機に、今後、この資料を活用した総合的研究を推進していきたいと考えている。

#### 註

- (1) 第一章は三澤、第二章・第三章は上野平が、それぞれ担当した。
- (2) 熊本大学三十年史編集委員会編『熊本大学三十年史』（一九八〇年）。
- (3) 熊本大学六〇年史編纂室所蔵。
- (4) 羽田貴史『戦後大学改革』（玉川大学出版部、一九九九年）。
- (5) 表中の荒木信義は、旧第五高等学校と旧熊本薬学専門学校両方に関係しているが、ここでは勤務時期から後者の関係者としてカウントした。
- (6) 『三十年史』一〇ページ及び『熊本県議会史』第五卷（一九七九年）。
- (7) 史料は、『三十年史』一〇ページ所引。
- (8) 『熊本県議会史』第五卷三一九ページ。
- (9) 一九四六年四月二三日付『朝日新聞』熊本県内版。

- (10) 一九二四（大正一三）年に宮崎高等農林学校として設立、一九四四（昭和一九）年に宮崎農林専門学校と改称。現在の宮崎大学農学部の前身校。
- (11) 『三十年史』一二―一三ページ。
- (12) そうしたムードの中で、次に示す熊本医大の学生の言葉は、なぜ総合大学が必要なのかを、学生の視点から捉えていて興味深い。

総合大学がもし実現されず、各個に単科大学となり、他に委まかされたとしたら、果たして内容の充実した大学が期待されるでしょうか、恐らく今よりもみじめな名だけの大学となつてしままうでしょう。我々は学生としての立場からだけではなく、県の教育振興にも密接な関連をもつ総合大学の本こ設置に全力をあげて努力し、全県民に呼びかけ、協力をお願いしたいと思います。

- (13) 『三十年史』一四―一五ページ。
- (14) 熊本大学六〇年史編纂室所蔵。

#### 二、「熊本総合大学創立回顧談話会速記録」

（目録番号A―一―三三）

#### 〔凡例〕

- ・資料収録にあたり、旧字は新字に改め、適宜句読点を付した。また、読みにくい語句や明らかな記述の誤りについては（ ）で記した。
- ・各参加者の発言において、記憶の行き違い等により事実関係が錯綜しているところも見受けられるが、現段階ではそのまま掲載することとした。

・三四ページ以下の目録は、上野平の責任の下、今林茂文、木梨寛子、西上史恵（以上熊本大学文学部）、魚住朗子、倉田法子、知念禎（以

上熊本大学社会文化科学研究科)の協力により作成した。

(表紙)「熊本総合大学創立回顧談話会速記録 二六、十一、九」

○福田<sup>1</sup> この回顧の談話は、皆さんがお揃いでなければならぬという性質のものでもないようでありますから、ただいまからご開会を願います。

○鰐淵<sup>2</sup> 今日は、だんだん時が経ちますと熊本総合大学の設立経過などみんな忘れてしまい、又資料も散逸いたしますから、その当時に関係してご尽力くださった皆さんに集つていただいて、話が生々しいうちに記録にとどめておいたらどうだという要望がありまして、期成会のほうでこの催しをお願いしたわけであります。副知事<sup>3</sup>がきて司会することになつておりましたけれども、ちよつと用事がありますので、初めて頂きます。現在の関係者とその当時の関係者と違つて居る所もありますが、その当時に実際活動された人から、なんでもいいから追憶談をお願いして、記録にとどめておき度いと存じます。正確な数とか日時などはなか、覚書でもないともつかしいですけれども、それはあとから訂正いたしますから、重要な、これはと思つたことがあつたらご発言願いたいと思ひます。ごくはじめからのことは県会議長<sup>4</sup>などが一番関係して居られました。書いてあるものがあるそうですから、それを福田先生に読んでいただきます。

○福田 県会議長は昨日、私は今日の会にはどうしてもよんどころない用事のために出席が出来ませんから、あなたに要領だけお話ししておきましょう、こういうことでありますので、私が聞いた分を二・三要領を書いておきますから、読上げます。尚後でチョット出席するかも知れないと云ふコトでした。期成会のほうで残つております

記録からいたしますと、昭和二十二年、三月二十四日に大学設置運動のために在京の有志に、衆議院・参議院の議員たちを併せて東京における実行委員というものを頼みしたという記録になつております。大久保議長<sup>5</sup>の記憶によりますと、昭和二十二年六月ごろと思う、総合大学十校を日本に必要とするので、あと三校を新たにつくるといふわきがあつた。その三校に割込まなければならぬという情報が東京方面からとどいた。そこで本県においては、県知事を期成会長として、議長が副会長と云ふ資格で、その誘致運動を展開することになつた。そうして最初は大学並びに各高等専門学校がそれにたいする見解やいろ、の立場の相違から、学校方面はなか、足並がそろいにくかつた。ことにいろ、その当時の取沙汰でございましょう、ある部面では今度大学になつた場合に、そういう専門学校等の教授連はどういうふうになるか、こういうご心配な事情もありましたが、六三三四制というものがいよいよハッキリすかた<sup>6</sup>がみえだしてきたので、そういう点についての危惧はなくなつた。しかし最初は現在大学に入つてゐる者のほか、語専<sup>7</sup>・女大<sup>8</sup>等も参加してたび、会合があつた。で、県会では昭和二十二年八月の県会に、この運動に必要な三十万円を追加予算として決議し、そうして県会議長と河野県議員と、稲毛県学務部長、西本議会議事務局長及び清田<sup>9</sup>という県の学務部主事と一緒に誘致運動のため上京して陳情した。そうしてその陳情のさいに、大久保海上保安庁長官<sup>10</sup>——当時は運輸省の海運局長であつたと思うが——が、文部省の剣木大学教育局長<sup>11</sup>といろ、話をして大臣や次官等に紹介してもらい、なおまた外務省の原という事務官から文部省の春山大学教育課長を紹介してもらつて、ともども非常に誘致についてご尽力を願つた。それでそのことについてはずいぶん奔走していただいた内容がいろいろあるけれども、それはこのお話のときには割愛してあります。そうし

てこういうふうになつたが、そのころまだこういう運動のために三十万円でなお不足をつげる折から、次の通常県会だつたと思うが、山中議員であつたと思うが、質問をして、この前の県会で運動費を議決し、さらに上京してさかんに運動されたが、その三十万円は有効適当に使用されたか、またその運動の結果見通しはどうか、こういう質問をされて、議長は有望だ、又費用は有効適切に使用されてゐると答弁したそゝです。知事は望みがうすいとこわいわれたんでしよう、どつちがほんとうだという、こういう質問があつたそうです。これは見通しだからめいめで必ずしも一致すべき性質のものではないやないか、どつちが本当でどつちがウソ、そういう性質のものではないという話も出た。こういうことでもあります。そうしてさらに三十万円の運動費を決議し、そうして翌二十三年三月十四日、朝日館<sup>⑧</sup>で大学誘致運動の県民大会を開催して、総合大学をどうしても熊本に誘致しなければならぬということで、たいへん火の手をあげた。そうして学生もそのころから誘致運動のために街頭に出をして大いに運動した。このころから再三上京陳情し、そうして各文部省の關係方面及び進駐軍のほうにもそれぞれ働らきかけた。そうしてまだ自分たちの思うほど県民一体の熱が上らなかつたから、これにはなんとか手がありそうなものだと思つておつた。ところが女子師範学校<sup>⑩</sup>で演芸大会のようなものを開いているので、これにヒントを得て、歌舞伎座<sup>⑪</sup>で芸能クラブの芸能大会をやるうということ、十月廿二、三日の両日、昼夜二回計四回、非常な盛況の埋に基<sup>⑫</sup>金募集の会をやつた。十五万円計り利益があつたが、それは入場税として県にとられるので、これはほかのことと違うから免税が出来ぬか、——県税ですから県のほうに交渉したが、そういうことは出来ないということ、十五万円ほどはとられてしまつた。それから二十三年度に文部省において各大学のいろいろな現状調査が必要と

あつて、各方面のデータを集められたが、本省へ行つてみると、富山県、広島県等非常に立派なものがきておつて、熊本はどうも気がひけた、ということでありました。それでこの運動をしておる途中に、だんだん大学の数がふえてきて、全国各府県に出来るようになったから、最初十大学というふれこみのときよりも熱がさめてきたし、なかには一体運動等をしてどれだけ効能があつたかということという人もあつたが、実はこういうことのために文部省にも了解してもらい、いろいろやつたから、他の高等学校の中にはそういかないで、教養学部の一部になつたりしたのもあるが、熊本の五高は法文学部と理学部の二つになり、またあるところでは薬学部といふのは医学部の中に入れられたところもあるけれども、熊本は薬学部が独立の学部になつたということで、この運動は徒事ではなかつたと信じている。要領はこういうことでもあります。以上。

○鰐淵 それは運動の初めのことだと思ひますが、それからだんだん皆さんご關係になつたのだらうと思ひます。参考のためにちよつと私、大体の経過をお話しますと、いま大久保さんのいわれたように、二十二年八月文部省で大学をつくることにたいする第一回の会会<sup>⑬</sup>があつたのです。いろいろ話が出ておつて、いよいよ文部省としては大学を増設するという第一回の会合でした。ところがその年の十二月になりました、いわゆる東北においてイールス<sup>⑭</sup>が大学・専門学校を地方に移譲するという議がおこつて、すつたもんだしておつたけれども、二十三年三月にいたつて地方に移譲しないということになつたので、七月になつて文部省で七つの原則をつくつて大学をつくるという話をすすめた。おそらく当時はいま大久保さんがいわれたように、日本にいくつの大学をつくるか、七つの帝大のほかにいくつくるかということを問題にして進んでおつたのでありますが、六月下旬になりました司令部から十一原則を示されました。その十



一原則のうちに、各県に教育学部を含む一つ以上の大学をつくるという条件がある、そこにいたつて各県につくらなければならぬということがはつきりしましたが、それで文部省としては全国にある二百七十八の国立大学、高等学校、専門学校を大体六十九の大学に切替えようということに話をまとめた。そうして大学設置審議会というものをつくりまして、その活動は大体二十三年の九月ごろから各大学の審査をはじめ、翌年の三月十六日に之を終了したので。その結果、出来た大学は、全国で申請した大学数が二百十九、そのうちで国立六十九、公立二十四、私立百二十三、その他三、許可されたものが国立六十八、公立二十三、私立百二十、その他三ということになりまして、許可された総数が二百十四であります。これはマア、大学がはじめの運動と違つて、どうして各県にこうたくさん出来たかという概略であります。関係者のいちはんはやいのは、ここにおいてなるうちでは、松本さんと藤田さんですね。

○大久保武雄氏 私は、きわめてかぎられた範囲でありますけれども、剣木君が非常に好意をもつてくれたということは、はじめから終始一貫しておつたと思います。いまの文部次官が大学教育局長、剣木君が次長であつたように思います。はじめから熊本を総合大学にしようという信念が、いまお話にあつたように、相当旺盛でありまして、非常な好意をもつてそういう方向にもつていくと考えると考えております。全国に各大学が出来ましたけれども、熊本と金沢だけはこれはまことに大体内容充実した大学が出来るものと期待するといつて、そつちのほうにもつていくということ、非常に応援してくれたように思います。

○鰐淵 いま大久保さんから聞いた通りですが、私がこの文部省のはじめの意図をはつきり知つたのは、今年の四月、春山課長からです。春山課長の話では金沢・熊本は初めから殆んど確定的で、それに

岡山・新潟・広島が便乗してきて運動が猛烈になつたから、それで確約せずにあしらつてきたと云う事です。もつと早くこの事を知れば、われわれははじめから安心していられたんですがね。

○大久保武雄 これは春山君の好意ですが、新潟が非常にいい資料をもつていつて、それで春山君が新潟が模範的資料をつくつて、熊本があれだけの設備をもつておるのだから、もう少し資料を考えたらどうかということ、こつそり新潟の資料を貸してくれて、県のどなたか写された。

○橋爪 金沢もよく出来ておりましたが、新潟のが一番よかつたですね。

○鰐淵 新潟のがなぜいちはんよかつたかという理由があるんですね。  
○広本 CIEのマーチンと云ふ人だつたと思ひますが、その人の指導で作つたと云ふことでした。それでよかつたんですね。

○鰐淵 何回か交渉しているうちに、熊本は良心的でいいといわれた。それは新潟になつたからです。

○橋爪 僕は最初の会合に市の助役として出ておつた。最初に期成会を設けたのは市の公会堂のホールでやつた。これが最初です。

○松本 太田原先生のお宅に集つたことがあります。二十二年の正月に。

○福田 在京の衆参議員有志を執行委員に委嘱したというのが当初になつておるようであります。それよりも前だつたでしょうね。県会議長の記憶では二十二年六月からのことになつておりますが。

○橋爪 それは六月でなくて七月です。私が市にいた時分、二十二年七月以前の事で、太田原先生とか学校の先生方がみえて、こういう気運だから県市で氣勢をあげてもらいたい、運動してもらいたいということ、市においてになつたことを記憶しております。その発端はどういう形式ではじめられたか、われわれ関知しません。

○高野<sup>20</sup> 県に教育民生部というのがそのころあつて、稲毛新氏が部長で、その下に学務課長、その下に清田という視学があり、その清田視学がいろいろ事務をやつておつた。教育民生部がいろいろ仕事をやる前に、誰がどういふふうに働らきかけたかわからない。

○橋爪 発端は大学のほうでなんとかやつていたかなければならぬという気運がおこつたんだらうと思う。

○松本 私に熊本にまいましたのが二十年十二月です。そのとき五高の校長さんが本島先生<sup>21</sup>ですね。私が工専校長に発令されたがまだ熊本に着任せない前、戸畑<sup>22</sup>におるときに、はじめ迎へにこられたのが学生課長の沢口先生なんです。沢口先生、お前郷里はどこか、栃木だ、五高の本島校長は群馬だ、お隣同志だから、というので、着任するなり本島先生にご挨拶に上り、一夜会食をした。そのとき二人の間に大学問題が出て、熊本に総合大学が出来なければいけませんなというようなことを話合つたことがあります。これが二十年十二月末か二十一年一月です。それから少し後に山崎セイトウ先生<sup>23</sup>が新聞に書かれたことがある。熊本はもともと帝国大学が出来るはずのところだつた、それが福岡にとられてしまつた。それでこの五高、龍田山あたりをセンターとして総合大学を作るべきだと新聞に書かれたことがあります。

○広本 本島先生とお話が出たのは―文部省の実業学務局長をしておられた永井浩<sup>24</sup>さんが知事として来任され、何かの機会に永井先生、本島先生、松本先生達が集まられた時、熊本に大学をおかなければならぬじやないかという話が出たと記憶しています。

○松本 それは本島先生たちと、いわば第二回目の大学に関する話合ですな。勿論それは正式じやないんですが。

○広本 それは正式じやありません。熊本大学の歴史の神代の時代の話とでも云ふべきものではないでせうか。永井先生は文部省からき

た知事だから、大学は是非つくらなければならぬだろうという話がありました。

○松本 工専で永井知事に講演してもらい、そのあとで本島先生たちと会合したのだと思ひます。

○広本 そのころは多分山崎セイトウ先生<sup>25</sup>が書かれた前後ですね。

○松本 永井知事の講演も工専の記録にありませうから、その年月日はつきりする訳です。

○広本 工専として正式に大学問題に関係したのは、二十二年の夏か秋頃、当時の松本校長と吉田・四宮<sup>26</sup>両教授の三名が期成会に出られたのが、あれがそもそものはじめだつたと思います。

○大原 前のことはしりませんが、一番はじめよばれたのは太田原先生とところによられた。その前に同窓会館で、いつごろだつたかはつきり記憶しませんが、一番古い記憶はお正月でした。二十三年のお正月、太田原先生のところにゆきました。あのとき誰が行つたかな。

○橋爪 それならば期成会の会合をやつたあとです。

○鰐淵 二十三年一月十五日です。その前に同窓会館で知事が見えて校長さん方と話をされたのが前じやなかつたですか。

○広本 知事がみえて、太田原先生がみえて、各高専から校長と教授があたりづつくらいみえた。あのとき私出ております。それが私の一番ふるい記憶です。それが二十二年十一月か十二月ごろじやないかと思ひます。

○橋爪 さつき申したように、私のところにみえた、おそらくその前に学長さんたちが一応下こじら<sup>27</sup>えがあつたと思います。それから集ろうじやないかということになつたんだらうと思います。

○松本 これは何年だかわからないが、今のお話よりは勿論前だと思ひますが、そのころ私は工専校長として大学昇格というようなことを頭<sup>28</sup>にえがいておりました。吉田先生も同じやうなことを考へてを

られたのですが、その頃工専が、全体の空気としてはあまり大学を希望せぬのじやないかしらんと思へたんです。これは想像ですけども。それでそういうふうの一つ気運をつくつてもらおうということとで、私と吉田先生とで安達謙蔵先生<sup>(28)</sup>をお訪ねしたことがあります。あれは何年だったか、え、さうです、そのとき安達先生が吉田先生と市長の候補に立たれたことについて、その話もありましたことと、吉田先生が市長候補に立たれた直後です。そういうわけで大学のことで安達先生にお願いするということでもまいりました、安達先生も吉田安さん<sup>(29)</sup>やその外第一線の代議士連の人たちに自分の方から話しておこうということでありました。

○橋爪 いまのお話は二十二年四月から七月までの話ですね。

○松本 そうです、暑いころです。

○広本 正式な話をはじめたのは二十二年夏ごろだったと思います。

○松本 いま一つやはり工専時代に大学昇格の方向に気運を向けなければならぬということと、工専の大先輩、松前重義さん<sup>(30)</sup>にお話したことがあります。松前氏もそのようなケチケチした考えではない、どんだん大学になすことを考えなければいけないということ、松前さんから工専の先生方にそういうことをそれとなく言っていたことがあります。それからこの同窓会館で各学校の代表が集つて、まだそのころ初めは師範学校が入つていなかった、師範学校に入つてもらうかどうかということとドウチヨク先生<sup>(31)</sup>がいらつちやつて師範学校の立場をおつしやり、かく、の考えだということと結局お入りにならなかつたことがありますね。あれは何月だったですかね。

○広本 二十三年四月でしょうね。

○ミマサカ<sup>(32)</sup> そのときの事情をちよつと——ドウチヤク先生<sup>(33)</sup>でありません、最初に呼ばれたのは私でした。ドウチヤク校長<sup>(34)</sup>が留守だった

ので急に——師範のほうは単科大学をもつて進むということで進んでおつた。ところが中央のほうでやはり総合大学の一部にするというような話が出てまいりまして、その後だったのですが、同窓会館で知事さんがみえて会合があつておつた。そこに師範学校から出るという話がありまして、ちよつとドウチヨク校長<sup>(35)</sup>が留守で、私とりあえずかけつけたんですが、そのとき師範はいままでいれんだったけれども、どうもいれざるを得ない状態になったので入ることについて、いま協議しておる、そういう話があつたんです。ところがやはり単科大学をもつて進んでいる、総合大学に入るにしても一つの学部形でなくてはとも師範のほうはぐあいがある、ということをお上りしましたが、学部は困る、とけこんでくれというお話がありまして、法文のほうから単位数もわずかなので学部に独立させるのはおかしいという意見も出ました。なにして校長がいなくて私一存でもいかぬので、そのまま帰りました。それが最初です。

○ それは二十三年二、三ごろでしょうね。

○鰐淵 五高で期成会をやつたのは二月二十三日で、知事が出て会合をやつていますね。いまの期成会じゃありませんけれども、期成会という名前をつけたのです。

○橋爪 県の期成会は二十二年に出来ているので、それは期成会というのじやないでしょう。

○松本 副知事になられたのはいつでしたかね。

○橋爪 二十三年七月です。それで二十三年四月のはじめに市役所を辞めたのです。私が直接期成会に関係したのは、五月十二日に会合があつたようだから、その翌日あたり、私のところに頼みにきたと思います。

○松本 橋爪先生はちよつとあのころ閑地におられました、学校側から知事さんにいろいろお願いをしたときに、知事さんは橋爪さんに

頼まうということ、橋爪さん、あなたが県を代表してそのほうの統帥をしてくださいでしたね。そうして東京にも一緒にまいりまして、御上京のあいだに副知事におなりになりましたんですね。

○橋爪 私が会に関係しだしたのが、私が入る前に期成会で仕事をすすめるなり、学部の構成と講座数をきめたり―学部の構成を大学内と県庁の学務課あたりの関係者が出て相談されておつたのですが、それだけでは十分ではありませんし、なかなか各学部で意見が対立してまとまりがつかぬようですし、片方ではいよいよ本格的に大学設置運動をしなければならぬから期成会を強化しようということ、事務局を置こうということになった。それで事務局長を誰にするかという話があつたさいに、私はその会には出なかつたが、たまたま市の助役をやめてブラブラしておつたから、橋爪を頼んだらよかろうということ、私は市の助役をしておつたし、知事とは同じ役人だし、県庁の関係もわかっているし、知事の気持もよくわかる、そういう者を一人入れるほうが、むしろ大学の内部だけで考えるよりも第三者が入つて調節するほうがいいじゃないか。こういうふうな意味合で私の話が出たように聞いております。そこで五月十二日かですか、その会合の後一日か二日して、当時の学務部長が私のところに来て、こういうわけで事務局長になつてくれという話があつた。私も県のためであるし、市にいる時分多少関係をもつておつたんだから出来るだけお世話しましょう、ただ私も一つだけ条件をつけましたが、そんなことはどうでもよろしい―が、一つの条件を引けないということ、稲毛君に答えました。そこで知事のほうでもやつてくれということになつた。それで私が関係しだしました。つづめていいますと、私の入つた意味合は、大学設立のため手続方面をまとめるということと、いろいろ学部方面で意見が出つておつたものを第三者の立場で調節する、こういうふうな必要があ

つたものと聞き、またそういうつもりで私は副知事になるまで二十三年七月ごろまでやつておつたわけです。それで事務局長は七月までです。その後に副委員長になりましたから、副委員長兼事務局長ということ、七月までやつておつた。副知事の発令が七月九日とありますから、それまでやつておりました。副委員長はそのまま、事務局はそれでやめました。

○ ちよつとお伺いいたしますが、二十二年七月二十二日に熊本大学期成会は成立しているので、この場合大学側とか県側の主なるメンバーははつきりしているんじゃないでしょうか、それまでの経過がはつきりしてないのじゃないですか。

○高野 私のほうの書類を調べますと、期成会の成立や役員などは全部揃つております。それは県民を網羅したベストメンバーといえましょうね。ただ期成会の成立までに仕事をやつたのは、私のほうの帳面上表れているのは文部省に陳情した或いは県会に陳情した、それだけしか記録がありません。誰がやつたかわからないです。ただそのころ、教育民生部の井上という主事が文部省に約一カ月間ばかりつめきりで、向うの情報を探知してこちらに一々電報等でしらせで連絡をとつてやつておつた。

○藤田 一番はじめは十の大学にすべりこもうというハラでしたから、いろいろな県の有志家や先生やこういう方々の声で期成会のまだ出ない前にいろいろな評議があつたのが二十二年の夏ごろでした。それからいろいろな評議をして、それじゃ運動をしようということになつて、そうして運動するのはマア県及び大学・高専の学生まで飛出したわけですが、そのころから学校の新大学のなかの構想というのは大学の先生方にお任せしようじゃないかということになりました。それから太田原先生のところ、二十二年の真冬だつたと思いますが、そのころから次第にあつちの専門学校、こつちの大



学で二次三次の会合をいたしました。そのころまでは師範は別でした。しかしなかなか議がまとまらんで、さつき橋爪さんがいわれたように、これは大学外の人によつて調整しようという議になつてきたんです。だから橋爪さんが入られた二十三年春から夏のころまでは、大学のなかの構想が甚だ難航でした。

○鰐淵 私の記録によりますと、県のほうで運動をやつているときに、学校のほうでは本島さんが中心になつて、医大の小堺事務官<sup>33</sup>が名古屋大学を作つた経験があるという事で、文部省と連絡をしておつた。それに太田原君も入つていたのですが、二十二年暮から病氣して寝込んでしまつた、それで一月ごろの会合には太田原君の自宅で作つた事もあります。小堺君は主として文部省との連絡をとり、本島さんは委員長のような格であつたのです。私の記憶では大学のほうの構想も容易にまとまらなかつた。例へば薬学部が独立するかしないかという問題、教育学部の問題もあるし、もう一つは県との連絡がよく取れて居なかつた。それで一月十六日に本島さんと私と小堺君も陪席して、知事室で知事と会つて県のハラがはつきりしたわけです。そこではじめて県のほうと大学のほうと連絡を緊密にしなればならぬというので、二月二十三日に五高で知事が出席して大学の委員の方にもきてもらつてやつたのが大体ははじめではないかと思えます。それから地方移譲の噂などがあつたりして、兎に角大挙して東京に行つて陳情しなければならぬ、特に四校の主脳部、工専・高等学校・医大・薬専の主脳部が文部省に運動する必要があるというので、私と竹屋君とが工専の校長室で校長連中が会合している場所に行つて「どうしてあなた方は東京に行かないですか」といつて大分詰寄つたことがあります。それから全部校長連が揃つて東京に行くことになつた。三月二日に医大の図書館で上京委員の打合会をやつて東京での活動や本部との連絡を決め、そのあとで藤田、吉田、

山田<sup>35</sup>の三君と私の四人が知事のところに行きまして、上京の打合せをして、三月三日に発つて、四日に着いております。このときに全部行つたんです。竹屋君が先着しておつて、私は三月三日に行きました。この時に衆議院の食堂で議員諸君と会合したのですが、竹屋君がさきに行つておつて準備をしておいた。そして衆議院はもうすみそうになつて、その日でなければ会合が出来ないということで、三月四日に会合したのです。ところが上京が後れて之に間にあわぬ人が多く、実は僕とタケヤ君<sup>（竹屋）</sup>と医大の連中ばかりが会合した。そのことを聞いて遅れて来た連中が怒りましてね、それで翌日の昼、この連中が行つてお客さんをもう一ぺんよぶことにした。こんな事で東京で一もめあつたんです。タケヤ君<sup>（竹屋）</sup>は議員の方でその日でなければ都合が悪いというので止むをえずその日に会合したのですが、遅れた連中は不満だつたのでせう。

○松本 何とかいひます元外務次官といふ方と会つたことがありますね。

○鰐淵 それはそのあとです。七日の正午に高輪の毛利邸において、劍木、田中、福田等の諸氏と会いました。

○藤田 そのときは劍木さんは次長でしたな。

○鰐淵 そうです。

○広本 私の日記にはその前の二十三日に五高の同窓会館で会合があり、いよいよ各学部における学科、講座等を定めなければならぬことになつたと書いております。それまでは何学科をおくか、又は何講座をおくかということは正式の問題になつておらなかつた。それをやらなければならぬというので、それが二月二十三日の会合でした。

○鰐淵 七日に毛利邸で文部省の人と会い、今度は九日に五反田の大崎寮で原事務官、寺崎前外務次官等を招待しました。

○藤田 いまの話のころは各県に一大学でなくて、十の大学にすべりこもうという、みんなの観念がこりかたまつていころの話です。だから話がちよつといまと違います。

○鰐淵 そうです。

○広本 その次を申し上げます。一般教養というのはどんなことをやるのかわからないので、五高の大原・山田の両君と工專の広本の三人で文部省に行つてよく聞いてこいということで、四月四日に上京しております。上京いたしまして、さきほどお話のあつた井上さんに会つていろいろ連絡案内してもらいましたが、なんといつても熊日の東京支社が非常に尽力してくれました。このことは是非記録に残さねばならないと思います。外務省の原さんとか文部省の剣木さんの御斡旋でいろいろなことを聞いたり調べたりしました。そうして帰つてきて、それらをもとにして案を立てるようになったのです。それからさきのこととは私の日記に色々書いております。

○福田 二十二年三月二十四日、在京の有志並びに両院議員を執行委員に委嘱したとありますが、そのまえになにかありそうなものですかね。あつていると思います。誰が委嘱したか——。

○鰐淵 それはおかしいですね。

○橋爪 最初が二十二年七月ですから、それはなにかの間違いでしょう。

○高野 委員の名前など記録にちゃんと書いてあります。

○橋爪 二十二年ではないでしょう。

○広本 それは一年違つていでしょう。二十三年の三月四日でしょうね。

○藤田 それは二十三年ですよ。二十二年三、四月ごろ、アメリカの教育使節団がきてアドバイスした。それからの六三三四の問題ですから、そのころそんなことがあるはずがない。<sup>36</sup>

○鰐淵 そうですね。文部省が二十二年の八月に会合をやつております。

○高野 二十二年七月に稲毛部長が上京しています。清田視学を連れて——。

○橋爪 二十二年七月に上京するのはいいんだ。

○高野 その前に在京委員を任命しております。

○橋爪 それはおかしい。委員なんかという形で——そんな馬鹿な話はない。熊本の委員が出来ない前、任命するはずはない。よろしくお願いするという形だろう。委員を任命した母体はどこだ。

○高野 それは知事の決裁です。

○橋爪 七月が最初の期成会のはじめだ、だから間違いだ。

○広本 熊本大学の運動をやるために印刷物をつくりまして、熊本市は南九州の政治文化の中心だという名文をつくられたのはいつごろですか。あれがはつきりした印刷に現れたのはじめてのものですね。

○鰐淵 あれは二十三年五月です。

○山下<sup>37</sup> 教育学部はさつきお話のように、二十三年二、三月ごろまでは教育大学の単科大学としてきたんです。ここの同窓会館でありました会議のときに、意志表示せよということで、入らぬというふうになつたのです。二十三年四月ごろからアドバイスされまして、教育学部は必ず各県に一つつくれということで、五月の期成会のあのときは教育学部も入つていたんです。青年師範はそのあとです。

○山田 師範の態度を表明されて一応脱退したんですね。師範の中にも期成会があつて、福田先生も寄附金募集の同窓会員としてああいうなかに入つておられたのですね。

○広本 私の日記に五月十二日午後一時、医大会議室において会合——専門委員の件、師範の件、教養の件を論ずる、そうして熊本大学設置委員会出来上ると書いております。

- 鰐淵 その事を申し上げますと、五月四日、文部省の指示に従って本県においても設立準備委員を設置することになり、五月十二日、知事以下関係者が医大の集会所に集まりました。(勢)へき頭、熊日の記事について知事より発言がありました。竹屋君や私の釈明により納得されました。委員会の組織は、私は期成会一本を主張しましたが、知事は二本立でもよからうという事で、期成会と委員会と二つ出来ました。委員長に知事、副委員長には副知事、本島、竹屋、大久保県会議長、市会議長、委員は各学校から数名づつ選ばれて、その下に組織委員会、施設委員会等の専門委員会を設けて、至急実動にはいることになりました。
- 橋爪 そのとき事務局という名前があつたはずですかね。
- 広本 そのときできたのでしょうか。
- 橋爪 そのときは、桜井知事(38)の話では、橋爪さんに事務局長を御願ひされたところ、事務局長という名前でもなくとも援助する、副委員長でいいじゃないか、実質的には事務局長の仕事をやられるけれども、事務局長という名前はいやだ、というふうにおつしやつたと、こういうふうに聞いております。
- 橋爪 そうです。そういうことをいいました。先刻の条件にもう一つ加えて、条件を二つ出したわけだ。事務局長はいらないじゃないか、委員でいいから手伝おう、それと無報酬。
- 鰐淵 委員ではこういう会合を司会するのに困るというので、それじゃ副委員長ということをお願いしたと思います。
- 橋爪 そうです。そうです。
- 鰐淵 そういう組織の下に組織委員と施設委員と予算委員が出来たのです。
- ミマサカ(美作) 施設と予算とわけたというのは、県の募金の関係をどういう割振をするかということからわけたと思います。
- 高野 副知事がおいでになつた五月十二日からがいよいよ活動期に入つた。それまでは準備期間だつたのですね。
- 橋爪 そうだ。僕が入つてきてから数回、元の公会堂裏の狭いところで打合をやつたことがあつた。それから本式に人を集めてやるうということ、各学校の事務官などに出てもらつて工専の会議室二階に集まるようになった。
- 公会堂のはしつこで何月か事務をとり、その後不便だといつたので工専に移つたんです。
- 高野 それから数十回の会合が夜おそくまであつたのです。
- 福田 それでいよいよもうすぐに出産といふところまでまいりましたな。
- 広本 申請書を出したのは記録にあるんですか。
- 橋爪 まだそこまでいかんだ。申請書は僕らと先生方と二回上京したそのときに出したんだから。ちようどどこしらえかかつたときに本島先生が更(かわ)られたり、あとで竹内先生(39)が更られたりして、だいたい面くらつたことがあつた。
- ミマサカ(美作) 文部省に行きますと、当時の熊本から出てこられた学校関係の方々の熱意というものはすばらしいものだつたということをいいますね。一本になつてバラバラの気持がみえない、一丸となつてこられたといふことをしきりに聞くんですが、その辺のところを聞きたいですがね。
- 鰐淵 運動するときは全部結束してやつたんですよ。
- ミマサカ(美作) その結束の状況が目立つて見事だといふんですよ。
- 鰐淵 それはなかなかさかんだったよ。
- 高野 あれは一つは熊本は各学部が一緒になつたためでしょう。九大あたりは佐高をもつてくるとか、名古屋大学は三重をもつてくるとか、いろいろあつたものですから。

○鰐淵 われわれはあるとき広島島の運動をみて、尾道の市長までやつて来ておつたので驚いたのです。ところがあとでわかつたことだが、尾道に師範を誘致するという運動だつたんですね。熊本はそんなこととはいいませんか。全部が熊本市だから非常によく結果しておつたんですね。

○広本 十一月ころに熊本大学設立のための予算概算説明にやつていくというので、小堺君と私とが文部省に行つた。そのとき橋爪副知事もちよつど知事会議に行つておられた。そのとき熊本県からの援助について質問を受けましたので、いま副知事がみえているから、連絡して明日説明してもらおうといつたら、向うは非常に感心しておつた。副知事はいそがしいなかをわざわざ文部省に行つて説明して下さつたんですね。そういう点が非常にいい印象を与えたのかもしれない。

○福田 それは七委員が実地調査したよりもあとですか、前ですか。

○橋爪 前です。

○藤田 そのときまでに三べんくらい文部省の指令も変るし、申請書を書直したんですね。

○鰐淵 組織委員会の組織の講座数を変更したのも、八へん変つていくんですね。

○広本 申請書は何べんか書き直しました。だからいま県にとつておられる設置申請書の中身は相当違つています。最後のは九月十日頃東京で書いたのがそうですね。

○松本 文部省では佐藤視学官も言明してゐた通り、熊本を一つのモデルにしようというので、熊本が要求した講座数を多々（多々）すぎるといつていました。それで文部省では非常にやかましく他大学に先だつて真先にたゞき落とされ、へらされた訳です。

○高野 申請書だけで約一メートルくらい、完成するまでの紙を併せ

たら天井までくらいあるでしょうね。

○福田 それでは大分興味あるお話が尽きないようでございますが、拝聴いたしましたのを一通り整理いたしましたして、その主なところを謄写刷にいたしましたしてお眼にかけますから、記憶のあやまりやお気づきのところはご訂正いただけます。それでは誕生までのところにまいりましたので、それ以後は記録の拠りどころがございますのはつきりしております。本日はご多用のところを有難うございました。

(1) 福田源蔵。元熊本中学校長、熊本大学設置募金事務局長。

(2) 鰐淵健之。元熊本医科大学長（一九四八年八月～一九五〇年一月）、熊本大学長（一九四九年五月～一九五九年五月）。以下の人物履歴については、本談話会の対象となる一九四五～五一年にかけてのものに限つて掲げることとする。

(3) 橋爪清人熊本県副知事のこと。途中からの参加が確認できる。なお、橋爪については註(15)で後述する。

(4) 大久保勢輔。熊本県会議長。

(5) 熊本語学専門学校。のち一九五〇年に熊本短期大学として認可、一九五三年に熊本商科大学となる。現在の熊本学園大学（新熊本市史編纂委員会編『新熊本市史』通史編第八巻、熊本市、一九九七）。

(6) 熊本県立熊本女子大学（一九四九年認可）。前身は戦前の熊本県立第一高等女学校高等科で、一九四七年に熊本県立女子専門学校として昇格。現在の熊本県立大学（前掲『新熊本市史』）。

(7) 大久保武雄。熊本中学、第五高等学校出身。運輸省海運総局船員局長（一九四五年一月～一九四八年三月）、不法入国船舶監視本部長（一九四八年三月～一九四八年五月）、海上保安庁長官（一九四八年五



月～一九五一年五月)。

- (8) 劍木亨弘。第五高等学校出身。文部省学校教育局长次長(一九四七年二月～一九四九年六月)、文部省大学学術局长(一九四九年六月～一九五〇年五月)、文部事務次官(一九五〇年五月～一九五一年三月)、内閣官房副長官(一九五一年五月～一九五二年八月)。
- (9) 熊本市花畑町にあった映画館(前掲『新熊本市史』)。
- (10) 熊本師範学校女子部のことか(熊本県女子師範学校は一九四三年に熊本師範学校と合併して官立に移管している)。
- (11) 熊本市練兵町にあった劇場(前掲『新熊本市史』)。
- (12) C I E教育課高等教育班顧問。なおC I Eについては註17を参照のこと。
- (13) 松本唯一。元熊本工業専門学校長(一九四五年一月～一九五一年三月)、熊本大学理学部長(一九四九年五月～一九五三年六月)。
- (14) 藤田穆。元熊本薬学専門学校長(一九四二年三月～一九五一年三月)、熊本大学薬学部長(一九四九年五月～一九六〇年三月)。
- (15) 橋爪清人。元熊本市助役。熊本総合大学設置準備事務局长(一九四八年五月一日～一九四八年七月二〇日)を務めた後、熊本県副知事。
- (16) 広本文四郎。元熊本工業専門学校教授、熊本大学理学部教授。
- (17) 民間情報教育局(Civil Information and Education Section)。日本占領中のGHQに置かれ、教育・宗教・マスコミなどの改革を担当。
- (18) GHQ東北軍政市民情報部教育部長E・マーチン博士のことか。マーチン博士は一九四八年(昭和二十三年)一月二〇日～二二日にかけて新潟・長岡を視察しており、新潟に総合大学の設置が必要である等の見解を示している(新潟大学五十年史編集委員会編『新潟大学五十年史』総編、新潟大学五十年史刊行委員会、二〇〇〇)。
- (19) 太田原豊一。元熊本医科大学長(一九四七年四月～一九四八年六月)。
- (20) 高野作。熊本県教育長総務部学芸課主事。熊本大学期成会事務局を  
担当していた。
- (21) 本島一郎。元第五高等学校長(一九四四年九月～一九四八年五月)。
- (22) 明治工業専門学校。松本は熊本工業専門学校着任前、明治工業専門学校で教鞭をとっていた。
- (23) 元熊本医科大学長(一九二五年一〇月～一九三二年一月)。
- (24) 元熊本県知事(一九四六年一月二五日～一九四六年七月九日)。
- (25) 吉田弥七。元熊本工業専門学校教授、熊本大学工学部長(一九四九年五月～一九五一年一〇月)。
- (26) 四宮知郎。元熊本工業専門学校教授、熊本大学工学部教授。
- (27) 大原英一。元第五高等学校教授、熊本大学理学部教授。
- (28) 熊本県出身。衆議院議員(一九〇二年八月～一九四二年四月)や内務大臣(一九二九年七月～一九三一年二月)、内閣参議(一九四〇年一〇月～一九四一年一〇月)などを務める。一九四八年八月没。
- (29) 衆議院議員(一九四六年四月一〇日当選)。
- (30) 熊本高等工業学校出身。一九四五年八月～一九四六年四月まで通信院総裁を務めたほか、一九四六年五月に東海大学を創立。以後東海大学学長・総長や衆議院議員を務める。
- (31) 銅直勇。元熊本師範学校長(一九四三年四月～一九四九年六月)、横浜大学学芸部長に転出。
- (32) 美作小一郎。元熊本師範学校教授兼庶務部長、熊本大学事務局長(一九四九年六月～一九五三年五月)。
- (33) 小塚庸三郎。元熊本医科大学事務官、群馬大学事務局長に転出。
- (34) 竹屋綱嗣。元熊本医科大学教授(一九四八年三月～一九四八年六月まで学長代理、一九四八年六月～一九四八年八月まで学長事務取扱)兼体質医学研究所長(一九四七年八月～一九四九年五月)。熊本大学体質医学研究所長(一九四九年五月～一九五五年六月)。
- (35) 山田昌司。元第五高等学校教授、熊本大学法文学部助教。

(36) 第一次米国教育使節団は一九四六〔昭和二一〕年三月来日しており、六・三・三・四制は一九四七〔昭和二二〕年三月三十一日公布、一九四七年四月一日施行の学校教育法による。また、一九四七年七月二二日に衆参議員・熊本県内各市町村長等を委員とする熊本総合大学期成会が正式に発足しており、一九四八〔昭和二八〕年三月二五日付の熊本日日新聞においては、総合大学実行委員会が三月二三日に発足したことを伝えていることが確認できる。

(37) 山下重輔。元熊本師範学校教授、熊本大学教育学部教授。

(38) 桜井三郎熊本県知事（一九四六年四月一六日～一九五九年二月一〇日）。このとき熊本大学期成会会長も務めていた。

(39) 竹内良三郎。元第五高等学校長（一九四八年六月～一九四九年五月）、信州大学理学部長に転出。

## 三、「熊本大学期成会資料」目録

## 【凡例】

○表題について、原題を欠くものについては仮題を（ ）で示した。

○編著者／発行所についても、内容から推定したものについては（ ）で示した。

箱番号	資料番号	表 題	編著者／発行所	年 代	冊数	備 考
A	1	熊本大学設置認可申請書	桜井三郎	1948.6.1	1	・綴。学校名及びその沿革・敷地関係・学部別備品・入学定員等
A	2-1	昭和二十三年五月 熊本総合大学関係書類	高野作	1948.5	1	・熊本大学設立準備委員名簿・出張記録等事務記録綴
A	2-2	総合大学関係（南九州）	和田	1947.7.25	1	・会議資料・校舎施設調書・期成会役員名簿等綴
A	2-3	熊本総合大学創立回顧談話会速記録	熊本大学期成会募金事務局	1951.11.5	1	
A	2-4	控 校地・校舎等建物附属図面		1949	13	・医(本庄・城内)・工・理・人文・教育学部の各部図面、五高配置図、工業専門平面図など
A	2-5	熊本大学医学部配置図		年未詳	3	・封筒一括。表に「(図面1)医科大学時代の本庄キャンパス(図面2)熊本城内時代の配置図」とあり ・熊本大学医学部配置図(2点)、熊本医科大学平面図(1点)
A	2-6-1	募金趣意書(新制熊本)	熊本総合大学期成会長 桜井三郎	(1949)	1	・封筒一括(同内容11点あり)
A	2-6-2	趣意書	熊本総合大学期成会長・熊本県知事 桜井三郎	(1949)	1	・封筒一括(同内容28点) ・「海外同胞の首様」あり
A	2-6-3	趣意書	熊本大学教育学部設置後援会/熊本大学設置期成会	1949	1	・「熊本師範学校分」とメモ書きあり
A	2-7	総合大学期成会委員委嘱について	熊本総合大学期成会長 桜井三郎	1948.2.26	1	・封筒一括(同内容3点あり)。表に「(南九州大学構想)」とあり
A	2-8	PETITON ASKING FOR THE ESTABLISHMENT OF A STATE UNIVERSITY IN KUMAMOTO CITY		年未詳	1	・封筒表に「南九州大学構想 陳情書の英訳」とあり
A	2-9	陳情書一国立総合大学の熊本市設置に関して一		年未詳	1	・同内容3点
A	2-10	(国立総合大学に関する件)	熊本軍政府コレル少佐	1948.3.16	1	・封筒に「熊本軍政府コレル少佐宛先連合国総司令官(南九州大学構想)」とあり。同内容5点あり
A	2-11	国立熊本総合大学設置計画書	熊本総合大学期成会	1948.5~1949.1	2	・昭和23年、昭和24年分。それぞれ同内容2点ずつあり
A	2-12-1	熊本大学設置要項	(熊本大学)	年未詳	1	・「第一案」と朱書あり
A	2-12-2	熊本大学設置要項	(熊本大学)	年未詳	1	・同内容2点。内1点に「第二案原稿控」と朱書あり
A	2-12-3	熊本大学設置要項	(熊本大学)	年未詳	1	・同内容6点。内1点に「第三案」とあり
A	2-12-4	熊本大学設置要項	(熊本大学)	年未詳	1	・同内容17点。内2点に「第四案」とあり
A	2-12-5	熊本大学設置要項	(熊本総合大学期成会)	年未詳	1	・綴。表に「参考(原稿となるもの)」と朱書あり。熊本総合大学期成会則・関係者名簿等
A	2-13	学部及学科教員配当定員	熊本大学	年未詳	1	・同内容19点あり
A	2-14	熊本総合大学創設費(施設費 設備費)明細書		年未詳	1	・同内容8点あり
A	2-15-1	熊本大学教員所要数算出の基礎案	熊本大学	年未詳	1	・「第一案」とあり
A	2-15-2	熊本大学国立新制大学講座別単位及び職員配当調	熊本大学	年未詳	1	・「第二案」と朱書あり
A	2-15-3	熊本大学国立新制大学講座別単位及び職員配当調	熊本大学	年未詳	1	・「第一案」とあり
A	2-15-4	旧制学校職員定員と新制大学職員予定定員との比較	(熊本大学)	年未詳	1	・同内容11点
A	2-15-5	(建築種別建物様式詳細表)		年未詳	1	
A	2-15-6	(学部年度別諸経費費用表)		1949~1952	1	
A	2-15-7	(熊本大学期成会会則・募金委員会・常任委員会役員表)	(熊本大学期成会)	1951.7	5	
A	2-15-8	(熊本大学期成会会則・募金委員会・常任委員会役員表)	(熊本大学期成会)	1951.7	1	・A-2-15-7の複写版
A	2-15-9	熊本大学設置要項	(熊本大学)	年未詳	1	・同内容2点あり
A	2-15-10	熊本大学設置要項	熊本大学	年未詳	1	
A	2-15-11	総合大学創設に要する経費		1949~1952	5	・大学所要経費調、経費増減事項別表あり ・A-2-15-22の一部か
A	2-15-12	(学部別学生定員・講座数・所要教官数表)		年未詳	1	・「第二案」と朱書あり
A	2-15-13	(経常費・臨時費〔第一期・第二期創設費内訳表])	(熊本大学期成会)	1949~1952	1	・「第二案」と朱書あり
A	2-15-14	旧制学校職員定員と新制大学職員予定定員との比較		年未詳	1	・第一案~第五案まであり
A	2-15-15	昭和二十四年二月調 教官住宅必要教調	熊本総合大学募金事務局	1949	1	
A	2-15-16	熊本大学設置概要	(熊本大学)	1949~1952	1	
A	2-15-17	昭和二十四年二月現在 既設財産調	熊本総合大学募金事務局	1949	1	
A	2-15-18	熊本大学建物配当緊急計画	熊本大学	年未詳	1	・同内容3点あり
A	2-15-19	熊本大学設置要項	(熊本大学)	年未詳	1	・手書きの草案
A	2-15-20	熊本大学設置要項	(熊本大学)	年未詳	1	・「第二案」と朱書あり
A	2-15-21	機械器具員数及価格調	熊本医科大学	年未詳	1	
A	2-15-22	熊本大学創設に要する経費	(熊本大学)	1949~1952	1	・A-2-15-11と関連(同内容)か

箱番号	資料番号	表 題	編著者/発行所	年 代	冊数	備 考
A	2-15-23	熊本総合大学期成会募金委員会会則	(熊本総合大学期成会)	年未詳	1	・A-2-12-5の一部(同内容)か
A	2-15-24	(委員会委員名簿)	(熊本総合大学期成会)	年未詳	1	・A-2-12-5の一部(同内容)か
A	2-15-25	熊本総合大学期成会委員	(熊本総合大学期成会)	年未詳	1	
A	2-16	愛知医科大学官立移官関係書類	名古屋帝国大学	1930~1931	1	
A	2-17	創設二閏スル愛知県記録	名古屋帝国大学	1938~1941	1	
A	2-18	総合大学設置二閏スル県会意見書	名古屋帝国大学	1918~1937	1	
A	2-19	名古屋帝国大学創設経緯(新聞記事)	名古屋帝国大学	1918~1939	1	・各新聞記事より摘要
A	2-20	九州大学農学部調査事項	熊本大学募金事務局	(1951)	1	
A	2-21	(佐賀大学についての調査事項)	熊本大学募金事務局	年未詳	1	・同内容2点あり
A	2-22	昭和二十五年七月一日 文理学部農学専攻講座増設並に各専攻名称変更認可申請書	佐賀大学	1950	1	
A	2-23	(農学部設置についての調査)	熊本大学期成会	1951	2	・明治工業専門学校・新潟医科大学の予算についての資料及び「山口総合大学設置のしおり」(昭和23年)
A	2-24	昭和二十四年度概算書(経常費)	熊本大学	1949	1	・「第一案の一」と朱書あり
A	2-25	昭和二十四年度概算書(経常費)	熊本大学	1949	1	・「第二案」とあり
A	2-26	熊本大学設置認可申請書補遺	(熊本大学)	1949~1952	1	・「第二案」と朱書あり
A	2-27	(追第一号議案)昭和二十二年度熊本県歳入歳出追加予算説明(昭和二十二年災害復旧及び産業館建設関係)		1947	1	・大学設置の建議等記載
A	2-28	熊本総合大学設置要項(昭和二三.五.六)	(熊本総合大学期成会)	1948.5.6	1	
A	2-29	熊本総合大学 雑	(熊本総合大学期成会)	1948	1	・学生・教員・定員調査ほか、「新学制への切替要項(熊本医科大学)」等
A	2-30	熊本大学設置認可申請書補遺	(熊本大学)	1949~1952	1	
A	2-31	(熊本大学設置に関する諸書類)	熊本大学	1950	1	・期成会関係設置要項、設置趣意書、募金趣意書等
A	2-32	(新制大学創設事務責任者の推選依頼報告)	(熊本大学期成会)	1948.10.13	1	・前身学校長への報告
A	2-33	総合大学懇談会出席名簿	(熊本総合大学期成会)	年未詳	2	
A	2-34	企画委員名簿		1947	1	・各前身学校長からの委員推薦通知あり
A	2-35	(人事申入書)		1949.2.21	1	
A	2-36	熊本総合大学期成会委員名簿	(熊本総合大学期成会)	年未詳	1	・同内容2点あり
A	2-37	熊本大学設置関係綴	(熊本大学期成会)	1949	1	
A	3-1	海外県人代表者名	(熊本大学期成会)	1949	1	・封筒入。表に「昭和二十四年開学記念式典関係 期成会資料」とあり
A	3-2	熊本大学開学記念式典関係書類	熊本大学	1949	1	
A	3-3	昭和二十四年 開学記念式典関係本部資料	(熊本大学)	1949	1	・プログラム、学長式辞、祝辞など
A	3-4-1	(文部大臣宛 祝辞交付願)	(熊本大学)	1954.10	1	
A	3-4-2	(案内状差出伺)	(熊本大学)	1954.10	1	・案内状草案あり ・文部大臣他関係各所宛
A	3-4-3	(開学五周年記念式典及行事伺)	(熊本大学)	1954.10	1	
A	3-4-4	(市内、大学、短大学長、高等学校長宛 開学五周年記念式典開催案内)	(熊本大学)	1954.10	1	
A	3-4-5	記念行事事務分担表案	(熊本大学)	年未詳	1	・開学五周年記念式典のものか
A	3-4-6	開学五周年記念式典及祝賀会役割(案)	熊本大学	年未詳	1	
A	3-4-7	(開学五周年記念行事案・費用内訳・旧現部局長評議員事務長名簿)	熊本大学	1954	1	
A	3-4-8	熊本大学開学記念行事一覽表(案)	熊本大学	年未詳	1	・同内容3点あり(内2枚は訂正あり)
A	3-4-9	(熊本大学開学記念行事案内)	熊本大学	年未詳	1	・同内容3点あり
A	3-4-10	熊本大学開学記念行事案	熊本大学	年未詳	3	・医学部展示会場出展目録、薬学部開放略図、熊本大学配置図 ・A-3-4-9の一部か
A	3-4-11	(熊本大学開学の概要の草案)	熊本大学	年未詳	1	
A	3-4-12	熊本大学開学の概要	熊本大学	年未詳	1	・A-3-4-11の改訂版か
A	3-4-13	開学記念行事一覽案	(熊本大学)	年未詳	2	
A	3-4-14	(開学五周年記念式典式次第)	熊本大学	年未詳	1	・手書き
A	3-4-15	(熊本大学開学五周年記念式典祝電)		1954	11	
A	3-4-16	開学五周年記念式典来賓名簿	庶務係	年未詳	1	
A	3-4-17-1	(開学記念学術講演者宛手紙)	熊本大学	1953	1	・A-3-4-17番台:封筒に「開学五周年記念式典外企画案外覽書」とあり ・局長名から講演者各位宛、手紙の草稿と実際の文面双方を綴ったもの
A	3-4-17-2	(開学記念学術講演会)	熊本大学	1953	1	・講演会の案内、記念式典招待状宛先リスト ・市内高等学校校長、市内中小学校校長、熊本県教育長、熊本市教育長、熊本県知事、熊本市長宛
A	3-4-17-3	(開学記念学術講演会)	熊本大学	1953	1	・A-3-4-17-2と同様のもの
A	3-4-17-4	(第五回熊本大学記念学術講演会案内)	熊本大学	1953	1	・熊本日日新聞社他各報道関係宛 ・講演会案内(完成版か)
A	3-4-17-5	(開学記念学術講演会)	熊本大学	1953	1	・A-3-4-17-2、3と同様のもの
A	3-4-17-6	(講演者演題訂正要請)	世良完介	年未詳	1	・司会者・講演者宛 ・封筒入、大学本部庶務課宛
A	3-5-1	熊本大学五周年開学記念祭プログラム	熊本大学開学記念行事実行委員会	1954	1	・同内容5点あり
A	3-5-2	(開学五周年記念行事出席者数)	熊本募金事務局	(1954)	6	・開学五周年記念行事スポーツ人員表(各学部別) ・メモ書きか



箱番号	資料番号	表 題	編著者/発行所	年 代	冊数	備 考
A	3-5-3	開学五周年記念式典及祝賀会役割(案)	(熊本大学)	(1954)	1	・式典・祝賀会各係詳細
A	3-5-4	(熊本大学開学記念行事案内)	(熊本大学)	(1954)	1	・同内容2点あり ・A-3-4-9と同内容
A	3-5-5	出席名簿	(熊本大学)	(1954)	1	・開学五周年記念式典来賓名簿か
A	3-5-6	来賓名簿	(熊本大学期成会)	(1954)	1	・同内容6点あり(A-3-5-5と同内容か)
A	3-6	開学五周年式典記録	熊本総合大学期成会事務局	1954	1	
A	3-7	開学五周年式典領収証	(熊本大学期成会)	1954	1	・綴。表紙に「会計監査済」の貼り紙あり
A	3-8	薬学部七十五周年記念祝賀に関する綴 昭和35年10月~11月		1960.10~11	1	
A	3-9	開学十周年祝賀領収証	熊本大学期成会	1959	1	
A	3-10	開学十周年祝賀式典		1959	1	
A	3-11-1	昭和三十四年十二月以降 開学十周年記念関係書類		1959.12~1961	1	・封筒入。表に「但名簿は期成会資料」とあり ・支出金・募金明細、実行委員会報告
A	3-11-2	来賓受付簿		1959	1	・朱書で「事務局用」とあり
A	4	農学部設置に関係する書類		1951	5	・封筒入。表に「農学部設置に関する書類(二七年募金委員会の綴りと同)」とあり。 ・他大学宛調査用紙(複数部)など
A	5	国立熊本総合大学組織表	(熊本大学)	年未詳	1	・封筒入。表に「国立熊本総合大学組織表」とあり ・同内容3点あり
B	1-1	熊本総合大学募金委員会記録	熊本総合大学期成会	1948~1950	1	
B	1-2	募金委員会議録	熊本総合大学期成会	1951	1	
B	1-3	募金委員会議録(写)	熊本総合大学期成会	1951	1	・B-1-2のコピー
B	1-4	(海外)期成会関係者写真	青木保	1951	2	・熊本総合大学ハワイ後援会長松村友次氏及び同後援会総務青木保氏の写真
B	1-5-1	(海外渡航許可願)	熊本大学募金事務局	1950	1	・B-1-5番台;封筒入。表に「渡航関係 至急進展」とあり ・緒方数彦氏の渡航申請
B	1-5-2	Travel of Japanese to the United States as Students		1950	1	・アメリカ・カナダの留学のための手順
B	1-5-3	覚	(緒方数彦)	年未詳	3	・美作局長、古賀課長との談話の結果を後日のため記したもの
B	1-5-4	布哇渡航許可願	熊本県議会事務局・熊本大学募金事務局	年未詳	1	
B	1-5-5	Procedures and Requirements for Japanese Traveling to the United States as Immigrant Ministers or Professors		年未詳	1	
B	1-5-6	(布哇渡航・帰国及帰布記録)		年未詳	1	・メモ書き
B	1-5-7	履歴書	緒方数彦	1950	1	
B	2-1	昭和二十三年五月起 熊本総合大学期成会	熊本総合大学期成会	1948.5~	1	・会則・名簿等
B	2-2	昭和二十四年一月起 熊本総合大学期成会募金委員会	熊本総合大学期成会募金委員会	1949.1~	1	・募金委員会設置・会則・各種規定、期成会募金目録など
B	2-3	昭和二十五年 期成会関係書類	庶務課総務係	1950~	1	・熊本大学教養教室建築用地贈書、法文学部関係図書購入書類・目録など
B	2-4	昭和二十六年度 期成会関係	熊本大学	1951	1	・法文学部寄贈図書書類・目録
B	2-5	昭和二十七年 期成会関係	熊本大学事務局	1952	1	・新制大学充実に對する地元負担額調、募金委員会委員名簿など
B	2-6	昭和三十年 期成会関係綴	(熊本大学期成会)	1955	1	・寄贈図書及器具目録、落合文庫目録など
B	2-7	昭和三十一年度 大学期成会関係	(熊本大学期成会)	1956	1	・医学部用器械類寄贈関係書類
B	2-8	昭和三十三年度 期成会関係	(熊本大学期成会)	1958	1	・工学部物品寄贈関係書類
B	2-9	期成会関係	(熊本大学期成会)	1959	1	・附属図書館書庫建築設計依頼、工・薬・医学部寄贈目録など
B	2-10	昭和35年度11月起 熊本大学期成会書類綴	熊本大学期成会	1960~	1	・熊本大学創設費・寄付金・申請書など
B	2-11	昭和37年度以降 期成会関係事項書類綴	(熊本大学期成会)	1962~	1	・図書館書庫工事完成・引渡書類
B	2-12	熊本大学期成会募金未納額調書	会計課	1962	1	・「資料は庶務課保管分によって作成す」とあり
B	2-13	収支決算書	熊本総合大学期成会	1962	1	・予算引継額明細
B	2-14	二十九年度熊本大学期成会関係	庶務係	1964	1	・表紙のみ
B	3-1	募金年度別割当	熊本大学募金事務局	(1960)	54	・昭和24年度から昭和35年度までの募金年度別表
B	3-2	昭和三十四年度 目標額算出資料	熊本大学	1959	23	
B	3-3-1	募金年度別割当	熊本大学募金事務局	(1960)	1	・B-3-1と同内容(同内容28点あり)
B	3-3-2	熊本総合大学期成会第三期市郡目標額	熊本大学募金事務局	年未詳	1	・同内容3点あり
B	3-3-3	熊本総合大学期成会昭和30年度(第六期)募金目標額	熊本大学募金事務局	年未詳	1	・同内容22点あり
B	3-3-4	熊本総合大学創設費昭和32年度募金目標	熊本大学募金事務局	1957	1	・同内容10点あり ・熊本総合大学創設費募金年度別表付き
B	3-3-5	熊本総合大学創設費昭和33年度募金目標	熊本大学募金事務局	1958	1	・同内容34点あり
B	3-3-6	熊本総合大学創設費昭和34年度募金目標	熊本大学募金事務局	1959	1	・同内容47点あり
B	3-3-7	熊本総合大学創設費昭和35年度募金目標(小切手払い口座の貯金利子口座組み入れ通知)	熊本大学募金事務局	1960	1	・同内容24点あり
B	3-4	熊本大学期成会成立及事業経過	(熊本大学期成会)	1966	1	・熊本総合大学期成会宛
B	5-1	熊本総合大学期成会決算書	熊本総合大学期成会	1949~1961	16	・封筒一括(同内容51点あり)。表に「期成会成立及事業経過」とあり ・「熊本総合大学期成会決算書 昭和36年6月30日」(同内容16点あり)、一部未記入
B	5-2	募金決算	熊本総合大学期成会	1949~1958	1	・支出内訳
B	5-3	熊本総合大学期成会募金決算	熊本総合大学期成会	1949	1	・同内容21点あり
C	1-1	昭和二十六年三月起 熊大工学部応用力学模様替綴	熊本大学期成会	1951	1	
C	1-2	昭和二十六年四月起 熊大工学部応用力学教室・機械及基礎工事関係綴	熊本大学期成会	1951	1	・綴。図面あり

箱番号	資料番号	表 題	編著者／発行所	年 代	冊数	備 考
C	1 - 3	昭和二十六年四月起 領収証綴 工学部応用力学教室模様替関係	熊本大学期成会	1951	1	・綴。表紙に「会計監査済 30.5.31」の貼紙あり
C	1 - 4	(工学部備品購入関係)	熊本大学期成会	1956	34	・封筒に「工学部器械 スミ」とあり
C	2 - 1	熊本大学臨海実験所建設費補助御願い 天草郡今津村	天草郡今津村	1952	1	・綴。図面あり
C	2 - 2	(熊本大学建設・寄贈図書関係)	熊本大学期成会	1951～1952	7	・封筒一括。表に「熊本大学期成会長殿」とあり
C	2 - 3	熊本大学理学部土地購入関係	熊本大学期成会	1952	1	・綴。表紙に「会計監査済」の貼紙と「(領収書) 募金支出簿」の朱書あり
C	2 - 4	理学部器械図書領収証 No.3	熊本大学期成会事務局	1956	1	・綴。表紙に「監査済」の貼紙あり
C	2 - 5	(法文学部書籍注文の返事)	国際労働事務局東京支局	1956.2.23	1	・封筒入。表に「法文学部に連絡のこと」と朱書あり
C	2 - 6	理学部器械図書領収証 No.4	熊本大学期成会	1958～1959	1	
C	2 - 7	熊本大学教養教室工事関係書類 E棟	熊本大学期成会	1952	1	
C	2 - 8	(熊本大学教養教室E棟新築認可申請書)	熊本大学期成会	1952	1	・綴。図面あり
C	2 - 9	(熊本大学教養教室[実験研究室]E新営工事仕様書)	熊本大学期成会	1952	1	・綴。図面あり
C	2 - 10	熊本大学教養教室実験台工事関係書類 E棟	熊本大学期成会	1952	1	
C	2 - 11	(熊本大学教養教室新築認可申請書)	熊本大学期成会	1950	1	・綴。図面あり
C	2 - 12	昭和二十五年七月起 熊本大学教養教室新築用地整地付帯工事関係 (土管工事関係)	熊本大学期成会	1950～	1	・綴。図面あり
C	2 - 13	昭和二十五年五月起 熊本大学建設に関する書類綴	熊本総合大学期成会	1950～	1	・綴。図面あり
C	3 - 1	昭和二十四年度 大学創設費募金状況一覧表綴	熊本総合大学募金事務局	1949～	1	
C	3 - 2	一般 大学創設費募金状況一覧表綴	熊本大学期成会募金事務局	1950～1953	1	
C	3 - 3	第二期募金割当資料綴	熊本大学募金事務局	1950	1	
C	3 - 4	第二期大学創設費募金状況一覧表綴	熊本大学期成会募金事務局	1951～1953	1	・郡別記載
C	3 - 5	第二期募金目標額割当資料綴 昭和28年1月	(熊本大学期成会)	1953.1	1	
C	3 - 6	第三期大学創設費募金状況一覧表綴	熊本大学期成会募金事務局	1952～1956	1	・郡別記載
C	3 - 7	第四期大学創設費募金状況一覧表綴	熊本大学期成会募金事務局	1956～1958	1	
C	3 - 8	第五期各市郡募金目標額	(熊本大学期成会)	1954～1956	1	・綴
C	3 - 9	第六期募金目標額	(熊本大学期成会)	1955～1958	1	・綴
C	3 - 10	昭和三十三年度 第七期募金目標額	(熊本大学期成会)	1957～1959	1	・綴
C	3 - 11	昭和三十三年度 第八期募金目標額	(熊本大学期成会)	1958～1961	1	・綴
C	3 - 12	昭和三十四年度 第九期募金目標額	(熊本大学期成会)	1959～1961	1	・綴
C	3 - 13	(第十期募金目標額)	(熊本大学期成会)	1960～1961	1	・綴
C	4 - 1	(医学部施設充実器械の購入について)	熊本大学医学部	1956	10	・封筒一括、熊本大学期成会宛。機器購入書類など
C	4 - 2	昭和二十六年七月起 熊本大学医学部学生控室・医学部附属病院・動物実験室建築関係綴	熊本大学期成会	1951.7	1	
C	4 - 3	昭和二十六年七月起 領収証綴 学生控室・動物実験室関係	熊本大学期成会	1951.7	1	・綴。表紙に「会計監査済30.5.31」の貼紙あり
C	4 - 4	医学部器械領収証 No.3	熊本大学期成会事務局	1956	1	・綴。表紙に「会計監査済 昭和三十三年六月二十二日」の貼紙あり
C	4 - 5	体研器械領収証	熊本大学期成会事務局	1956	1	・綴。表紙に「会計監査済 昭和三十三年六月二十二日」の貼紙あり
C	4 - 6	工学部・薬学部・理学部・医学部放射能測定器領収証	熊本大学期成会事務局	1955	1	・綴。表紙に「会計監査済 昭和三十三年六月二十二日」の貼紙あり
C	4 - 7	医学部機械領収証 No.4	熊本大学期成会事務局	1958	1	・綴
C	4 - 8	藤崎台県営野球場建設に伴ふ家屋移転及び附属建物の新営に関する書類綴、領収書綴 昭和35年3月	熊本大学期成会	1960.3	1	・綴
C	5 - 1	薬学部器械図書領収証 No.3	熊本大学期成会事務局	1956	1	・綴。表紙に「監査済」(一部破損)の貼紙あり
C	5 - 2	昭和二十六年三月 機械購入に関する書類綴	熊本大学期成会	1951.3	1	・理学部・薬学部関係
C	5 - 3	薬学部器械図書領収証 No.4	熊本大学期成会事務局	1958	1	・綴
C	5 - 4	(薬学部内容充実備品購入について)	薬学部	1956	40	・封筒入。表に「熊本総合大学期成会 高野様」とあり
C	6 - 1	理学部実験器具2・薬学部実験器具2・医学部実験器具2・工学部実験器具3 領収証	熊本大学期成会事務局	1954	1	・綴。表紙に「会計監査済30.5.31」の貼紙あり
C	6 - 2	医工理薬 放射能測定器書類	(熊本大学期成会)	1954	8	・封筒入。機器パンフレットなど
C	7 - 1	熊本大学教育学部美術工芸教室新築認可申請書	熊本大学期成会	1954	1	・綴。図面あり
C	7 - 2	美術工芸教室建築書類	熊本大学期成会	1954	1	・綴。図面あり
C	7 - 3	美術工芸教室建築領収証	熊本大学期成会	1954	1	・綴。表紙に「会計監査済30.5.31」の貼紙あり
C	7 - 4	(熊本大学美術工芸科教室工事関係書類)	熊本大学期成会	1954	1	・綴。図面あり
C	7 - 5	熊本教育学部音楽教室新営工事綴	熊本大学期成会	1952	1	・綴。表紙に「会計監査済30.5.31」の貼紙あり
C	7 - 6	音楽教室領収証綴	熊本大学期成会	1952	1	・綴
C	7 - 7	音楽教室水道工事書類	熊本大学期成会	1952	1	・綴
C	7 - 8	教育学部器械図書領収証 No.1	熊本大学期成会	1956	1	・綴。表紙に「監査済」(一部破損)の貼紙あり
C	7 - 9	教育学部器械図書領収証 No.2	熊本大学期成会	1958	1	・綴
C	7 - 10	音楽教室電気工事書類	(熊本大学期成会)	1952	1	・綴。図面あり
C	8 - 1	学生会館建築書類	(熊本大学期成会)	1954～	1	・綴。図面あり
C	8 - 2	(熊本大学生生ホール建設関係)	熊本大学期成会	1954	1	・綴。図面あり
C	8 - 3	学生会館 領収証	熊本大学期成会	1954	1	・綴。表紙に「会計監査済30.5.31」の貼紙あり
C	8 - 4	熊本大学生生学生会館建築認可申請書	熊本大学期成会	1954	1	・綴。表紙に「会計監査済30.5.31」の貼紙あり

箱番号	資料番号	表 題	編著者／発行所	年 代	冊数	備 考
C	8-5	熊本大学学生会館新築申請書	熊本大学期成会	1954	1	・綴。図面あり ・C-8-4の控えか
C	9	熊本大学学生寮（小磯寮）増築関係書類	（熊本大学期成会）	1960	4	・綴、封筒あり ・熊本大学管理係より高野先生（期成会）へ提供されたものか
C	10-1	工学部器械領収証 No.5	（熊本大学期成会）	1958	1	
C	10-2	「工学部用高周波電力発生装置（ラヂオヒーター）購入支出伺	（熊本大学期成会）	1955	1	・綴。表紙に「会計監査済30.5.31」の貼紙あり。「神戸工業の展望」と題する商品カタログなど同綴
C	10-3	工学部器械図書領収証 No.4	（熊本大学期成会）	1956	1	・綴。表紙に「監査済1957」（一部破損）の貼紙あり
C	11-1	第三回ドイツ文化夏期セミナー（昭和三十六年九月）	第3回ドイツ文化夏期セミナー開催地代表者熊本大学法文学部教授永松譲一	1961.9	8	・綴。第13回ドイツ文化セミナーの開催通知および補助金の収支決算報告
C	11-2	（法文 購入伺 控書）	熊本大学期成会	1954	6	・綴。法文学部の図書・書架等購入関係書類
C	11-3	昭和二十五年十二月 図書購入に関する書類綴	熊本大学期成会	1950.12	1	・綴。法文・理学部関係書類
C	11-4	法文学部図書領収書2（一）	熊本大学期成会	1954	1	・綴。表紙に「会計監査済30.5.31」の貼紙あり
C	11-5	法文学部図書領収証2（二）	熊本大学期成会	1954～1955	1	・綴
C	11-6	法文学部図書領収証3	熊本大学期成会	1955	1	・綴。表紙に「監査済 昭和三十二年六月二十二日」と貼紙あり
C	11-7	第四期 法文図書	熊本大学期成会	1956	1	・綴
C	11-8	法文学部図書領収証 No.5	熊本大学期成会	1958	1	・綴
C	11-9	昭和二十五年七月起 熊本大学法文学部研究室改造に関する書類綴	熊本大学期成会	1950.7	1	・綴。図面あり
C	11-10	昭和二十五年八月起 領収証綴（寄宿舍関係）	熊本大学期成会	1950.8	1	・綴。表紙に「会計監査済30.5.31」の貼紙、「法文学部研究室模様替」の朱書あり
C	11-11	（理学部・法文学部図面）		1950	5	・綴。旧五高寮の改造、教養棟の新営等についてのもの
C	11-12	昭和二十五年八月起 熊本大学法文学部改造電気工事関係綴	熊本大学期成会	1950.8～	1	・綴
C	11-13	昭和二十五年八月起 熊本大学法文学部改造水道瓦斯工事綴	熊本大学期成会	1950.8～	1	・綴
C	11-14	法文学部図書領収証 No.4	熊本大学期成会	1956	1	・綴。表紙に「監査済」（一部破損）の貼紙あり
C	11-15	落合文庫目録		年未詳	1	・綴。署名・冊数・価格目録。同内容3点あり
C	11-16	熊本大学期成会 寄贈図書及び器具目録（法文第二）	熊本大学期成会	年未詳	1	・綴
C	11-17	寄贈図書目録		年未詳	1	・綴
C	11-18	寄附目録（機械器具の部）		年未詳	1	・綴。同内容2点あり
C	12	附属病院器械領収証	（熊本大学期成会）	1956	1	・綴。表紙に「監査済 昭和三十二年六月二十二日」の貼紙あり
D	1-1	熊本大学教養教室水道工事関係書類 E棟	熊本大学期成会	1952	1	・綴
D	1-2	熊本大学教養教室電気工事関係書類 E棟	熊本大学期成会	1952	1	・綴
D	1-3	熊本大学教養教室新築関係書類 E棟	熊本大学期成会	1952～1953	1	・綴
D	1-4	大学病院に於ける特殊病棟の新営に関する陳情	熊本大学医学部附属病院	(1951)	1	・綴
D	1-5	熊本大学教養教室新築関係領収書 E棟	熊本大学期成会	1952～1953	1	・綴。表紙に「会計監査済30.5.31」の貼紙あり
D	1-6	熊本大学教養教室用地通用門関係書類	熊本大学期成会	1952	1	・綴。表紙に「会計監査済30.5.31」の貼紙あり
D	1-7	熊本大学教養教室（実験研究室）関係書類綴	熊本大学期成会	1952	1	・綴。表紙に「会計監査済30.5.31」の貼紙、「D棟 用地適用門の書類」の朱書あり。中に図面同綴
D	1-8	（熊本大学教養教室（実験研究室）新築認可申請書）	熊本大学期成会	1952	1	・綴。表紙に貼紙あり
D	1-9	（熊本大学教養教室（実験研究室）新築認可申請書）	熊本大学期成会	1952	1	・綴。表紙に貼紙あり ・図面あり
D	1-10	熊本大学教養教室（実験研究室）給排水工事	熊本大学期成会	1952	1	・綴。表紙に「D棟」の朱書あり
D	1-11	領収証 熊本大学教養教室（実験研究室）新築	熊本大学期成会	1952～1953	1	・綴。表紙に「D棟」の朱書あり
D	1-12	第二期工事 領収証綴（教養教室）	熊本大学期成会	1950～1951	1	・綴。表紙に「会計監査済30.5.31」の貼紙あり ・「C棟」の朱書あり
D	1-13	昭和二十六年五月起 熊本大学教養併教室机椅子関係綴	熊本大学期成会	1951.5～	1	・綴。表紙に「会計監査済30.5.31」の貼紙、「完 領収証募金支出簿①」の朱書あり
D	1-14	昭和廿六年一月（第二期）水道工事に関する書類綴	熊本大学期成会	1951.1～	1	・綴
D	2-1	昭和二十五年六月起 熊本大学整地関係領収証綴	熊本総合大学期成会	1950	1	・綴。表紙に「会計監査済30.5.31」の貼紙あり
D	2-2	昭和二十五年六月起 熊本大学整地直営工事綴	熊本大学期成会	1950	1	・綴。図面あり
D	2-3	昭和二十五年六月起 熊本大学整地関係綴（失業対策事業）	熊本大学期成会	1950	1	・綴
D	2-4	熊本大学教養教室（実験研究室）瓦斯工事	熊本大学期成会	1952	1	・綴。「D棟」と朱書あり ・図面あり
D	2-5	熊本大学教養教室（実験研究室）実験台・教卓	熊本大学期成会	1952	1	・綴。「D棟」と朱書あり ・図面あり
D	2-6	熊本大学教養教室（実験研究室）電気工事	熊本大学期成会	1952	1	・綴。「D棟」と朱書あり ・図面あり
D	2-7	昭和二十五年八月起 熊本大学教養教室電気工事に関する綴	熊本大学期成会	1950～	1	・綴
D	2-8	（熊本大学教養併教室新築認可申請書）	（熊本大学期成会）	1950～	1	・綴。図面あり
D	2-9	昭和二十五年七月 熊本大学水道工事関係綴	熊本大学期成会	1950	1	・綴
D	2-10	昭和二十五年七月起 領収証綴（水道工事関係）	熊本大学期成会	1950	1	・綴

箱番号	資料番号	表 題	編著者／発行所	年 代	冊数	備 考
D	2-11	昭和二十五年六月起 熊本大学建設領収証綴	熊本総合大学期成会	1950	1	・綴。表紙に「会計監査済30.5.31」の貼紙あり
D	2-12	昭和二十五年十月二十五日 教養教室落成式記録綴	熊本大学期成会	1950	1	・綴
D	2-13	昭和二十五年十月 熊本大学教養教室落成式領収証綴	熊本大学期成会	1950	1	・綴
D	2-14	昭和二十五年十二月 第二期 電気工事に関する書類綴	熊本大学期成会	1950	1	・綴
D	2-15-1	(熊本大学付近見取図)		年未詳	1	
D	2-15-2	(教養科教室C棟建築図)		年未詳	1	
D	2-15-3	(教養科教室C棟配置図)		年未詳	1	
D	2-16	昭和二十五年十二月 第二期 領収証綴 (電気工事関係)	熊本大学期成会	1950	1	・綴
D	2-17	第二期 熊本大学教養教室認可申請書	熊本大学期成会	1950	1	・綴。図面あり
D	2-18	昭和廿六年一月 (第二期) 領収証綴 水道工事関係	熊本大学期成会	1951	1	・綴
D	2-19	第二期工事 熊本大学建設に関する書類綴	熊本大学期成会	1950～1951	1	・綴
D	2-20	昭和二十五年八月起 領収証綴 (電気工事関係)	熊本大学期成会	1950	1	・綴
D	3-1	図書館建築領収証 第一期工事	熊本大学	1955～1957	1	・綴
D	3-2	第一期図書館建設書類綴	熊本大学募金事務局	1955～1958	1	・綴
D	3-3	(熊本大学附属図書館新築落成式案)	熊本総合大学期成会	1957.2.21	1	・綴
D	3-4	(図書館落成式費用関係書類)	熊本大学期成会	1957	1	・綴
D	3-5	(図書館落成式費用関係書類)	熊本大学期成会	1957	1	・綴
D	3-6	(熊本大学附属図書館〔1棟〕新営工事関係書類)	熊本大学期成会	1956	1	・綴。図面あり
D	3-7	(熊本附属図書館に関する書類)	熊本大学期成会	1955～1956	30	・綴。図面あり
D	3-8	熊本大学附属図書館書庫建築工事書類 昭和35年7月	熊本大学	1960.7	1	・綴
D	3-9	昭和三十三年十一月起 図書館書庫建築工事書類領収証綴	熊本大学期成会	1958.11	1	・綴
D	3-10	(熊本大学附属図書館書庫新築関係書類)	熊本大学期成会募金事務局	1960.12.7	1	・綴
D	3-11	(熊本大学附属図書館書庫増築に伴う電気配管追加工事関係書類)	熊本大学	1961.5.16	1	・綴
D	3-12	(熊本大学附属図書館書庫新築の附帯工事〔書架〕関係書類)	熊本大学期成会募金事務局	1961.3.10	1	・綴。入札手順、契約委任状、図書館調査書など
D	3-13	(熊本大学附属図書館書庫建築関係書類)	熊本大学期成会募金事務局	1960.11.28	1	・綴。入札・契約・請負金支払など。図面あり
D	3-14-1	(熊本大学附属図書館給排水・ガス工事竣工、完工届)	合資会社上田商会	1956～1957	4	・D-3-14番台：封筒一括。表に「附属図書館書庫建築書類」とあり
D	3-14-2	(熊本大学附属図書館電気工事代金関係書類)	合資会社電盛社	1956～1957	1	・綴
D	3-14-3	(熊本大学附属図書館給排水工事代金内訳明細書)	合資会社上田商会	1956	1	・綴
D	3-14-4	(熊本大学附属図書館新築工事既済部分価格内訳書)	株式会社建吉組	1956	1	・綴
D	3-14-5	熊本大学附属図書館新築工程図	株式会社建吉組	1956	1	
D	3-14-6	熊本大学附属図書館新築工事内訳明細書	株式会社建吉組	1956	1	・綴
D	3-14-7	(熊本大学附属図書館支払額内訳書)	熊本大学期成会募金事務局	年未詳	1	・綴
D	3-14-8	熊本大学図書館建築 事業経過報告	熊本大学期成会	1955～1957	1	・綴
D	3-14-9	工事請負代金最終回拂請求書	株式会社建吉組	1957	1	・熊本大学附属図書館新築工事代金請求書。同内容2点あり
D	3-14-10	熊本附属図書館新築工事 材料メーカーに依る内訳調書	株式会社建吉組	1956	1	
D	3-14-11	(熊本大学附属図書館新築工事用電力電燈及用水使用許可申請依頼)	株式会社建吉組	1956	1	・熊本大学期成会会長桜井三郎宛
D	3-14-12	(熊本大学附属図書館設備寄附願書)	熊本大学期成会会長寺本広作	1960	1	・熊本大学長本田弘人宛。期成会長に寄付願出を一任する決議書など。「第一案訂正の部不要 ×である」との付紙あり
D	3-14-13	(熊本大学附属図書館書庫図面)		年未詳	1	・同内容3点あり
D	3-14-14	熊本大学附属図書館書庫建築計画表	(熊本大学期成会)	(1960)	1	・「図書館における図書建築委員会の人名」について鉛筆書あり。同内容5点、内1点に修正あり
D	3-14-15	(熊本大学附属図書館書庫新営計画図)	(熊本大学期成会)	年未詳	1	・同内容2点あり
D	3-14-16	(熊本大学附属図書館書庫の建物寄附願出)	熊本大学期成会会長寺本広作	1960	1	・熊本大学長本田弘人宛 ・期成会長に寄付願出を一任する決議書あり
D	3-14-17	(熊本大学附属図書館書庫建築計画)	熊本大学	年未詳	1	・第1期～第3期の工事計画
D	3-14-18	国有敷地に建物等を寄附する場合の取扱について	熊本大学	年未詳	1	・綴。熊本大学附属図書館の寄附に関する手続きについて。同内容2点あり
D	3-14-19	(熊本大学期成会副会長水上長吉氏の退職に伴う記念品料の贈呈伺)	熊本大学期成会	1960	1	・綴
D	3-14-20	(熊本大学附属図書館建築に伴う土地使用許可願)	熊本大学期成会会長寺本広作	1960	1	・綴
D	3-14-21	(熊本大学附属図書館増築工事用地使用許可通知)	熊本大学長本田弘人	1960	1	・D-3-14-20の回答
D	3-14-22	(熊本大学附属図書館書庫建築についての建築委員会開催案内)	熊本大学期成会会長寺本広作	1960	1	・同内容2点あり
D	3-14-23	伺 (熊本大学附属図書館書庫建築についての寄附願書および決議書提出について)	熊本総合大学期成会会長寺本広作	1960	1	・綴。熊本大学長本田弘人宛 ・期成会長に寄付願出を一任する決議書あり
D	3-14-24	(熊本大学附属図書館書庫建築の設計依頼の伺)	熊本総合大学期成会会長寺本広作	1960	1	・綴



箱番号	資料番号	表 題	編著者／発行所	年 代	冊数	備 考
D	3-15-1	工事請負契約書	合資会社電盛社	1961	1	・D-3-15番台：封筒一括。封筒表に「高野教官殿 寄附工事関係書類」とあり ・熊本大学附属図書館書庫増築に伴う電気配管工事請負契約書
D	3-15-2	附属図書館書庫増築工事関係書類	合名会社寺辻組	1960	1	・綴。代人届、工事着工届、現場係員届、熊本大学附属図書館書庫増築内訳明細書など
D	3-15-3	工事請負契約書	有限会社福岡熊平商店	1961	1	・熊本大学附属図書館書庫積層書架取設工事請負契約書
D	3-15-4	着工届	有限会社福岡熊平商店	1961	1	・熊本大学附属図書館書庫積層書架取設工事についてのもの
D	3-15-5	工事費内訳明細書	有限会社福岡熊平商店	1961	1	・熊本大学附属図書館書庫積層書架取設工事についてのもの
D	3-15-6	(熊平製作所概要)	株式会社熊平製作所	(1960年代)	3	・冊子。「御使命願書」(熊本大学宛)、「会社経歴書」(印刷物)、「納入先一覧表」(印刷物)
D	3-16	(熊本大学附属図書館書庫新築の附帯工事〔電気〕伺)	熊本大学期成会募金事務局	1961.4.1	1	・綴。図面あり
D	3-17	工事請負契約書	合名会社寺辻組	1960.12	1	・綴。熊本大学附属図書館書庫増築工事請負契約書
D	3-18	(熊本大学附属図書館書庫の新築工事延期伺)	熊本大学期成会募金事務局	1961	1	・綴
D	3-19	熊本大学附属図書館新営工事仕様書	(熊本大学期成会)	1955	1	・綴。「建築工事共通仕様書」(文部省管理局教育施設部)合綴
D	3-20	(熊本大学附属図書館書庫新設関係綴)	(熊本大学期成会)	1956.3.12	1	・綴。図面あり
D	3-21-1	熊本大学附属図書館給排水工事第1回既済部分内訳明細書	上田商会	1956	1	・D-3-21番台：紐で一括。「附属図書館」とあり
D	3-21-2	(附属図書館新営工事図面)		1956	65	・図書館各部図面
D	3-22-1	熊本総合大学創設費寄附金年度別調書	熊本大学	1951~1959	2	・D-3-22番台：封筒一括。表に「図書館書庫建築工事確認書綴」とあり ・同内容2点(内1点に「(熊本県)」とあり)
D	3-22-2	昭和35年度 入学生 府県別調書	熊本大学	1960	1	・府県別入学生の学部毎の内訳
D	3-22-3	(熊本大学附属図書館書庫新築工事関係書類)	熊本大学期成会	1960	1	・綴。「熊本大学附属図書館書庫増築工事特記仕様書」・図面などあり
D	3-23-1	(熊本大学附属図書館書庫 第一期工事概要)	熊本大学	年未詳	1	・D-3-23番台：封筒一括。表に「書庫補充書類」とあり
D	3-23-2	(熊本大学附属図書館書庫 第一期工事収支内訳)	熊本大学	年未詳	1	・綴
D	3-23-3	(熊本大学附属図書館書庫 第一期・第二期工事費用)	熊本大学	年未詳	1	
D	3-23-4	伺(熊本大学附属図書館書庫建築について)	熊本大学期成会募金事務局	1960	1	
D	3-23-5	(熊本大学附属図書館書庫 第一期・第二期工事収支予算)	熊本大学	年未詳	1	・綴。「一案」と朱書あり。同内容2点あり
D	3-23-6	市 第9期募金表	熊本大学	1960	1	・綴
D	3-23-7	熊本大学附属図書館書庫新営計画	(熊本大学期成会)	年未詳	1	・図面
D	3-23-8	熊本大学附属図書館書庫増築計画案	(熊本大学期成会)	年未詳	1	
D	4-1	実験研究室新営工事平面図		年未詳	1	
D	4-2	熊本大学教養教室E棟(実験研究室)新営工事設計図短計及各部詳細図		年未詳	1	・裏に「3」と朱書あり。同内容4点あり
D	4-3	熊本大学教養教室E棟(実験研究室)新営工事設計図配置図・見取図・軸割図・建具表・仕上表・仕口詳細図		年未詳	1	・裏に「1」と朱書あり
D	4-4	熊本大学教養教室E棟(実験研究室)新営工事設計図平面・各伏図・立面図・軸割図		年未詳	1	・裏に「2」と朱書あり。同内容2点
D	4-5-1	熊本大学教養教室E棟(実験研究室)新営工事の内給排水工事平面配置・流し詳細		1952.11	1	・「E棟給排水」と朱書あり。同内容8点あり。図面、仕様書についても記載あり
D	4-5-2	教養学教室A棟階下平面図		(1952)	2	・D-4-6-2の複写版
D	4-6-1	熊本大学教養教室E棟(実験研究室)新営工事の内電気工事平面配置		1952.11	1	・「E棟電」と朱書あり。同内容8点。図面、仕様書の記載あり
D	4-6-2	教養教室A棟階下平面図		(1952)	1	・D-4-5-2の原本
D	4-7-1	熊本大学教養科教室第一期工事平面図・各伏図・姿図(A棟)		1950	1	・1/9枚中
D	4-7-2	熊本大学教養科教室第一期工事B棟平面・立面・各伏図		1950	1	・2/9枚中
D	4-7-3	熊本大学教養科教室第一期工事一般短計図 主要材寸法表		1950	1	・3/9枚中
D	4-7-4	熊本大学教養科教室第一期工事階段廻詳細図		1950	1	・4/9枚中
D	4-7-5	熊本大学教養科教室第一期工事2階天井伏・軸組詳細		1950	1	・5/9枚中
D	4-7-6	熊本大学教養科教室第一期工事成業詳細図・配置図・建具表・仕上概要		1950	1	・6/9枚中
D	4-7-7	熊本大学教養科教室第一期工事B棟軸組 各部詳細		1950	1	・7/9枚中
D	4-7-8	熊本大学教養科教室第一期工事A棟附属便所各図		1950	1	・8/9枚中 ・裏に「第一期」と鉛筆書あり
D	5-1	A棟平面図・各伏図・姿図		年未詳	1	
D	5-2	B棟平面図・立面図・各伏図		年未詳	1	
D	6-1	熊本大学工学部平面図		1950	1	・D-6番台：紐で一括。「工学部昭和25年」の紙片あり
D	6-2	工学部配置図(模様替建物)		1950	1	・同内容7点あり
D	6-3	材料試験機基礎之図		1950	1	

箱番号	資料番号	表 題	編著者/発行所	年 代	冊数	備 考
D	6-4	応用力学実験室・動力・電灯・瓦斯・水道・配線配管要領図		1950	1	・同内容6点あり。但し、1枚のみ朱書あり
D	6-5-1	(熊本大学工学部応用力学実験室旧武道場改修工事・平面及立面図)		1950.5	1	・同内容6点あり
D	6-5-2	応用力学実験室 武道場改修工事・玄関及階段		1950.5	1	・同内容6点あり
D	6-6	応用力学実験室機械配置図		1950	1	
D	6-7	バクトン基礎図		1950	1	・同内容2点あり
D	7-1	熊本大学法文・教育・理学・工学部建物統合計画図		年未詳	1	・D-7番台:封筒一括。表に「熊本大学医学部配置図・熊本大学医学部附属病院計画図 No.1 No.2・熊本大学法文・教育・理・工計画図」とあり
D	7-2	熊本大学薬学部配置図		年未詳	1	
D	7-3	熊本大学医学部附属病院配置図		年未詳	1	
D	7-4	熊本大学医学部附属病院復興計画図		年未詳	1	
D	8-1	工場配置図		年未詳	1	・「6/2GHQより返還してもよろしいときている」など、メモ書きあり
D	8-2	(工場・社宅等の配置図)		年未詳	1	
D	9-1	熊本大学教育学部部分教場平面計画		(1954)	1	・期成会寄贈分について鉛筆書あり
D	9-2	熊本大学教育学部新敷地美術工芸科教室電気工事平面図		1954	1	
D	10-1-1	土地使用に関する調書		1954	2	・D-10-1番台:封筒一括。表に「土地使用」とあり
D	10-1-2	(土地使用許可通知)	熊本市長林田正治	1954.9	2	・封筒入。表に「土地使用同意書」とあり ・同意書あり
D	10-1-3	(熊本大学教育学部美術工芸教室寄贈受領書)	熊本総合大学期成会 長桜井三郎	1955	4	・封筒入。表に「熊本総合大学期成会 高野主事様 美工教室(検査・寄贈)」とあり
D	10-2	熊本大学法文学部・教育学部・一般教養部建物統合計画案		1954.3	1	・図面
D	11	熊本県立第一高等学校校舎平面図		年未詳	1	・同内容4点あり
D	12-1	(熊本大学教養科教室第二期工事C棟附属便所 各図)		1950	5	・D-12番台:紐で一括。 ・裏にそれぞれ「2」、「3」、「4」、「6」とあり。ただし、「6」のみ2点
D	12-2	熊本大学学生会館(学生ホール)新営工事設計図		年未詳	1	・原本
D	12-3	熊本大学法文学部理学部寄宿舎模様替の内電気施設改修工事		1950.8	1	・図面、仕様書
D	12-4	(平面図)		(1950)	1	・12-3の図の続きか
D	12-5	(天井各緑詳細図 西出入口詳細)		(1950)	1	・12-3の図の続きか。同内容2点
D	12-6	(配置図)		(1950)	1	・12-3の図の続きか
D	12-7	熊本大学法文学部理学部平面図		1950	1	・教養教室の新営に係るもの(12-3の図の続きか)
D	12-8	熊本大学教養科教室第一期工事の内電気施設工事 平面側面図		年未詳	1	
D	12-9	実験台(4×6)、同(4×9)及教卓設計図		年未詳	1	・同内容9点
D	12-10	熊本大学教養科教室第一期工事 見取図		1950	1	・原本(1点)、複写版(3点)
D	12-11	(断面図・平面図・正面図)		(1950)	1	・教養教室関係か
D	12-12	熊本大学教養教室[実験研究室]新営工事設計図 短計詳細図		(1950)	3	・各図面裏に「3」、「4」、「6」とあり
D	12-13	(教養科教室C棟図面)		(1950)	1	
D	12-14	(平面図)		(1950)	1	・D-12-12の続きか
D	12-15	熊本大学教養学教室第二期工事の内給排水施設工事平面配置・水呑足洗場詳細		1950	1	・図面、仕様書。図面裏に「第二期水道」とあり
D	12-16	熊本大学教養科教室第二期工事		(1950)	1	・図面。裏に「電気工事」、「4」とあり
D	12-17	実験テーブル及教卓 設計図		(1950)	1	・原本1点、複写版6点
D	12-18	実験研究室新営工事平面図		(1950)	1	・裏に「教養教室D」と朱書きあり。同内容2点あり
D	12-19	熊本大学教養科教室第一期工事A棟附属便所 各図		1950	1	・8/9枚中
D	12-20	熊本大学教養科教室第一期工事電気施設工事		(1950)	1	・図面。裏に「教養教室 電①」と朱書あり。同内容2点
D	12-21	熊本大学教養科教室第一期工事階段廻詳細図		1950	2	・4/9枚中
D	12-22	熊本大学教養科教室第一期工事		1950	3	・図面。1、2、3/9枚中。それぞれ平面図・各伏図・姿図(A棟①)、B棟平面・立面・各伏図②、一般短計図主要材寸法表③
D	12-23	熊本大学教養教室[実験研究室]新営工事設計図		(1950)	9	・裏に「7」(2点)、「6」(2点)、「5」(2点)、「4」(2点)、「2」(1点)と朱書あり
D	12-24	熊本大学教養科教室第一期工事 合成梁詳細図・配置図・建具表・仕上概要		1950	2	・6、7/9枚中
D	12-28	熊本大学教養教室(実験研究室)新営工事設計図		1952	7	・「1」(1点)、「2」(1点)、「3」(1点)、「4」(1点)、「5」(1点)、「6」(1点)、「7」(1点)とあり
D	12-29	熊本大学教養教室(実験研究室)新営工事の内給排水施設工事		1952	13	・D-12-29~31:一括。「教養教室」[工事図書教養第一期]「教養教室D棟(実験研究室)図面」の紙片あり ・図面
D	12-30	熊本大学教養教室(実験研究室)新営工事の内電気工事		1952	9	・図面
D	12-31	熊本大学教養教室(実験研究室)新営工事の内瓦斯施設工事		1952	3	・図面
D	13	熊本大学教養学教室第一期工事の内給排水施設工事		1951.6	3	・封筒入。表に「工事図書教養第一期」とあり
D	14-1	学生ホール食卓設計図		年未詳	1	・裏に「学生ホール食卓」とあり。同内容6点あり

箱番号	資料番号	表 題	編著者／発行所	年 代	冊数	備 考
D	14-2	熊本大学学生会館新営の内電気工事		1954	1	・図面。裏に「学生ホール電気」とあり。同内容5点あり
D	14-3	熊本大学学生会館新営工事の内給排水並瓦斯工事		1954	1	・図面。裏に「学生ホール給排水ガス」とあり。同内容3点あり
D	14-4	熊本大学教育学部新敷地美術工芸科教室新営工事		年未詳	1	・図面
D	14-5	熊本大学学生ホール新営工事仕様書		1954	1	・綴。同内容3点あり。内1点に日付の記入あり
D	15	Section of Tidal Current (spring tide)	熊本大学期成会	1954	1	・図面。潮流の区画についてのもの
D	16-1	教育学部音楽教室新営工事		1952	1	・図面。裏に「教育学部音楽教室新営工事(京町)」と鉛筆書あり
D	16-2	教育学部新敷地美術工芸教室給排水並瓦斯新設工事		1954	1	・図面。1/2枚中
D	16-3	熊本大学教育学部新敷地美術工芸教室新営工事		1954	1	・図面。2/2枚中。仕様書あり
D	16-4	熊本大学教育学部新敷地美術工芸教室新営工事		1954	1	・図面。9/9枚中
D	16-5	熊本大学教育学部新敷地美術工芸教室新営工事		1954	1	・図面。7/9枚中
D	16-6	熊本大学教育学部新敷地美術工芸教室新営工事		1954	1	・図面。8/9枚中
D	16-7	教育学部新敷地美術工芸科教室給排水並瓦斯新設工事		1954	1	・図面。2/2枚中。D-16-3と同内容だが、仕様書なし
D	16-8	熊本大学教育学部新敷地		1954	1	・図面。5/9枚中
D	16-9	熊本大学教育学部新敷地美術工芸科教室電気工事		1965	1	・図面。1/2枚中
D	16-10	(動物舎建築図面)		年未詳	1	・図面原本
D	16-11	教育学部音楽教室新営工事		1952	1	・1/2枚中 ・原本
D	16-12	教育学部音楽教室新営工事		1952	1	・図面原本。2/2枚中
D	17-1	熊本大学医学部附属病院犬舎新営工事仕様書		年未詳	1	・図面。原本(1点)、複写版(8点)
D	17-2	熊本大学医学部附属病院犬舎新営工事		1954	1	・図面。原本(1点)、複写版(6点)
D	17-3	(動物舎建築確認通知書)	熊本大学期成会	1951	1	・綴。図面3点あり(熊本大学医学部附属病院配置図(1点)、建物断面詳細図(2点))
D	17-4	熊本医科大学付属病院復興計画平面図		年未詳	1	
D	17-5	熊本大学医学部付属病院復興計画図		年未詳	1	
D	17-6	(動物舎断面詳細図)		年未詳	1	
D	17-7	熊本大学医学部付属病院配置図		年未詳	1	・原本(1点)、複写版(2点)
D	17-8	(動物舎断面詳細図)		年未詳	1	・同内容2点あり
D	18	(教育学部棟図面)		年未詳	4	・教育学部棟設計図 ・「教育学部」[学生部]と紙片あり
E	1	昭和三十四年度 印刷費領収証	(熊本大学期成会)	1959	1	・綴
E	2	昭和三十四年度 手当領収証	(熊本大学期成会)	1959	1	・綴
E	3	昭和三十四年度 会議費領収証	(熊本大学期成会)	1959	1	・綴
E	4	昭和三十四年度 出張命令簿	(熊本大学期成会)	1959	1	・綴
E	5	昭和三十四年度 旅費領収証	(熊本大学期成会)	1959	1	・綴
E	6	昭和三十四年度 雑費領収証	(熊本大学期成会)	1959	1	・綴
E	7	昭和三十四年度 懇談費領収証	(熊本大学期成会)	1959	1	・綴
E	8	昭和三十四年度 備品費領収証	(熊本大学期成会)	1959	1	・綴
E	9	昭和三十四年度 督励費領収証	(熊本大学期成会)	1959	1	・綴
E	10	昭和三十四年度 通信費領収証	(熊本大学期成会)	1959	1	・綴
E	11	昭和三十四年度 消耗品費領収証	(熊本大学期成会)	1959	1	・綴
E	12	昭和三十四年度 食料費領収証	(熊本大学期成会)	1959	1	・綴
E	13	昭和三十四年度 燃料費領収証	(熊本大学期成会)	1959	1	・綴
E	14	昭和三十四年度 文具費領収証	(熊本大学期成会)	1959	1	・綴
E	15	(昭和三十五年度 旅費領収証)	(熊本大学期成会)	1960	1	・綴
E	16	(昭和三十五年度 会議費領収証)	(熊本大学期成会)	1960	1	・綴。但し、表紙のみで中身なし
E	17	(昭和三十五年度 燃料費領収証)	(熊本大学期成会)	1960	1	・綴
E	18	昭和三十六年度 食料費領収証	(熊本大学期成会)	1961	1	・綴
E	19	昭和三十六年度 消耗品費領収証	(熊本大学期成会)	1961	1	・綴
E	20	昭和三十六年度 印刷費領収証	(熊本大学期成会)	1961	1	・綴
E	21	(昭和三十五年度 文具費領収証)	(熊本大学期成会)	1960	1	・綴
E	22	(昭和三十五年度 食料費領収証)	(熊本大学期成会)	1960	1	・綴
E	23	昭和二十五年五月起 寄贈台帳	熊本総合大学期成会	1950~1960	8	・綴。物品寄贈書
E	24	昭和二十五年五月起 寄贈台帳(原稿)	熊本大学期成会	1950~	1	・綴
E	25	(備品寄贈関係書類)	熊本大学期成会	1957	8	・封筒に「寄贈関係書類」とあり
E	26	熊本大学附属図書館給排水工事内訳明細書	熊本大学施設課寺脇文男	1956~	2	・綴、封筒入。熊本大学期成会募金事務局 高野先生宛
E	27	熊本大学期成会引継書	(熊本大学期成会)	1961	1	・綴
E	28	熊本総合大学創設費(助成金)補助について	熊本総合大学期成会長 桜井三郎	1956	1	・綴
E	29	(寄贈品関係)	熊本大学期成会長 寺本広作	1959	1	・綴。法文学部図書目録
E	30	(寄贈品関係)	熊本総合大学期成会長 寺本広作	1960	1	・綴。理・教・法文・薬学部物品寄贈関係書類
E	31	(寄贈物品受領書)	熊本大学長 鰐淵健之	1950	1	・綴。学長用乗用車。法文学部教室など
E	32	(寄贈図書器具他の受領書)	熊本大学長 鰐淵健之	1951	1	・綴。図書・機器・土地等の寄贈書
E	33	(熊本大学理学部教養教室寄贈・受領書)	熊本大学長 鰐淵健之	1952	1	・綴
E	34	(工学部用地の寄贈・受領書)	(熊本大学期成会)	1953	1	・綴
E	35	(支出元台帳)	(熊本大学期成会)	1958~1961	7	・綴。封筒入。封筒に「元台帳 肥後銀行」とあり
E	36	総合大学期成会経費支出簿	教育文化部総務課	1947~1948	1	・綴
E	37	事務局員退職手当及役員退職記念品領収証綴	熊本大学期成会事務局	1961	1	・綴

箱番号	資料番号	表 題	編著者/発行所	年 代	冊数	備 考
E	38	出張伺	熊本大学期成会	1960～1961	1	・綴
E	39	(熊本大学理学部備品購入関係)	熊本大学理学部	1959	9	・封筒一括。封筒に「理学部 No.4」とあり。パンフレット、購入書類など
E	40	(熊本大学薬学部備品購入関係)	熊本大学期成会	1958	4	・封筒一括。封筒に「薬学部内容充実 4」とあり。パンフレットなど
E	41	(熊本大学法文学部備品・書籍関係)	熊本大学期成会	1958～1959	11	・封筒一括。封筒に「法文学部 No.5」とあり
E	42	(熊本大学医学部実験器具関係)	熊本大学期成会	1958～1959	14	・封筒一括。封筒に「医学部実験器具 4」とあり。パンフレット、備品購入書類など
E	43	(熊本大学各学部備品関係)	熊本大学期成会	年未詳	20	・封筒一括。封筒に「工・理・薬・医器具」とあり。備品購入書類など
E	44	(理学部内容充実物品購入関係)	熊本大学期成会	1956	25	・封筒一括。封筒に「第三回理学部内容充実関係書」とあり。備品購入書類など
E	45-1	昭和二十四年一月現在 熊本県郡別町村名町村長名簿	熊本総合大学事務局	1949	1	・E-45番台；封筒一括。表に「熊本大学整備に関する書類」とあり
E	45-2	熊本総合大学期成会委員	熊本大学期成会	年未詳	1	・綴
E	45-3	熊本大学医学部附属病院に関する調書	熊本大学期成会	年未詳	1	・綴
E	45-4	病院完成後の病床数	熊本大学期成会	1951	1	・綴
E	45-5	昭和28年度 国立文政施設費概算要求内訳書	熊本大学期成会	1953	1	・綴。同内容2点あり(内1点に書込みあり)
E	45-6	(学部及講座数・経費概要・臨時費内訳)	熊本総合大学期成会	1949～1952	1	・綴。同内容2点
E	45-7	熊本大学整備計画事業量調	熊本大学期成会	1952	1	・同内容2点あり
E	45-8	昭和二十三年度 歳入歳出予算	熊本大学期成会	1948	1	・綴。熊本大学関係予算か
E	45-9	経費増減事項別表	熊本大学期成会	1949～1952	1	・総合大学創設に要する経費、旧制学校縮減経費についてのもの
E	45-10	(天草郡募金収入調書)	熊本大学募金事務局	1952～1956	4	・天草郡募金目標額(第1期～第5期)、第5期、第6期の収入調書、29年度以前滞納繰越額を含む30年度の収入調書
E	46	昭和三十六年度 懇談費領収証	熊本大学期成会	1961	1	・綴
E	47	昭和三十六年度 文具費領収証	熊本大学期成会	1961	1	・綴
E	48	昭和三十六年度 燃料費領収証	熊本大学期成会	1961	1	・綴
E	49	昭和三十六年度 予備費領収証	熊本大学期成会	1961	1	・綴
E	50	昭和三十六年度 雑費領収証	熊本大学期成会	1961	1	・綴
E	51	昭和三十六年度 督励費領収証	熊本大学期成会	1961	1	・綴
E	52	昭和三十六年度 備品費領収証	熊本大学期成会	1961	1	・綴
E	53	昭和三十六年度 通信費領収証	熊本大学期成会	1961	1	・綴
E	54	昭和三十六年度 手当領収証	熊本大学期成会	1961	1	・綴
E	55	昭和三十六年度 会議費領収証	熊本大学期成会	1961	1	・綴
E	56	昭和三十六年度 旅費領収証	熊本大学期成会	1961	1	・綴
E	57	昭和三十五年度 消耗品費	熊本大学期成会	1960	1	・綴
E	58	昭和三十五年度 手当	熊本大学期成会	1960	1	・綴
E	59	昭和三十五年度 雑費	熊本大学期成会	1960	1	・綴
E	60	昭和三十五年度 懇談費	熊本大学期成会	1960	1	・綴
E	61	昭和三十五年度 督励費	熊本大学期成会	1960	1	・綴
E	62	昭和三十五年度 備品費	熊本大学期成会	1960	1	・綴
E	63	昭和三十五年度 印刷費	熊本大学期成会	1960	1	・綴
E	64	昭和三十五年度 通信費	熊本大学期成会	1960	1	・綴
E	65	昭和三十三年度 雑費領収証	熊本大学期成会	1958	1	・綴
E	66	昭和三十三年度 旅費領収書	熊本大学期成会	1958	1	・綴
E	67	昭和三十三年度 文具費領収書	熊本大学期成会	1958	1	・綴
E	68	昭和三十三年度 食料費領収書	熊本大学期成会	1958	1	・綴
E	69	昭和三十三年度 消耗品費領収書	熊本大学期成会	1958	1	・綴
E	70	昭和三十三年度 印刷費領収書	熊本大学期成会	1958	1	・綴
E	71	昭和三十三年度 通信費領収書	熊本大学期成会	1958	1	・綴
E	72	昭和三十三年度 督励費領収書	熊本大学期成会	1958	1	・綴
E	73	昭和三十三年度 懇談費領収書	熊本大学期成会	1958	1	・綴
E	74	(教育学部備品購入関係書類)	熊本大学期成会	1958～	43	・封筒一括。表に「教育学部 No.2」とあり
E	75	第三期各学部充実関係書類	熊本大学期成会	1956	9	・封筒一括。表に「昭和三十一年十一月」と朱書あり
E	76	(工学部備品購入関係書類)	熊本大学期成会	1958	24	・封筒一括。表に「工学部 No.5」とあり
E	77	第四期(昭和三十三年四月起)各学部充実伺	熊本大学期成会	1958	8	綴。
E	78	(教育学部内容設備関係書類)	熊本大学期成会	1956	45	・封筒一括。表に「教育学部内容設備」とあり
E	79	昭和三十三年度 燃料費領収書	熊本大学期成会	1958	1	・綴
F	1	昭和二十四年二月起 復命書綴	熊本総合大学期成会募金事務局	1949.2	1	
F	2	昭和二十四年一月調 管内鉄道・駅名・料程・定額旅費調書綴	熊本総合大学期成会募金事務局	1949.1	1	
F	3	(原子力平和利用会議領収証)	熊本大学期成会	1960	6	・封筒一括。表に「原子力平和利用会議録の領収証在中」とあり
F	4	市電キップ支出簿	熊本総合大学期成会	1953～1961	1	
F	5	熊本縣管内料程表	熊本県内政部会計課	1944.10	1	・昭和19年10月改訂版
F	6-1	収支決算書	熊本総合大学期成会	1962.4	2	
F	6-2	熊本総合大学創設費昭和35年度募金目標	(熊本大学期成会)	1960	1	・各市郡別内訳
F	6-3	熊本総合大学創設費昭和32年度募金目標	(熊本大学期成会)	1957	1	・各市郡別内訳。同内容28点あり
F	7	期成会借用書	熊本総合大学期成会	1955～	18	・物品借用書・購入領収証
F	8	市民税・県民税・給与所得源泉徴収書類	熊本大学期成会募金事務局	1957～1961	7	・期成会事務局職員の給与所得税・市民税徴収簿など
F	9	昭和二十四年度起 予算関係書類綴	熊本総合大学期成会	1949	1	・綴。表紙に「会計監査30.5.31」と貼紙あり
F	10	町村長町村議長名簿	熊本県町村会	1953～	1	
F	11	(熊本県事務所・各部町村会・各市・各郡地方事務所名簿)	熊本大学	年未詳	1	
F	12	昭和二十四年一月起 人事に関する綴	熊本総合大学期成会	1949.1～	1	
F	13	熊本大学期成会募金事務局 整理費領収証	熊本大学期成会募金事務局	1961	1	・綴



箱番号	資料番号	表題	編著者/発行所	年代	冊数	備考
F	14	(旅費領収証綴)	熊本大学期成会募金事務局	1949~1950	1	
F	15	(熊本大学期成会寄附金使途調書)	熊本大学期成会	1953~1955	1	・綴。物品・図書購入等について
F	16-1	(期成会寄附金使途調書)	熊本総合大学期成会	1954	4	・F-16番台：封筒一括。封筒表に「諸請求書」とあり ・経費・物品購入について
F	16-2	(熊本大学内容充実関係書類)	熊本大学期成会	1954	14	
F	16-3	移動式温床設計図	熊本大学薬学部	年未詳	1	・図面
F	17	昭和二十六年四月起 出張命令簿	熊本総合大学期成会	1951.4~	1	・綴。表紙に「会計監査済30.5.31」と貼紙あり
F	18	昭和二十五年起 決算書	熊本総合大学期成会	1950~	1	・綴
F	19	昭和二十四年一月起 出張命令簿	熊本総合大学期成会	1949.1	1	・綴
F	20	昭和二十四年九月起 出張命令簿	熊本総合大学期成会	1949.9	1	・綴
F	21	(旅費領収証)	熊本総合大学期成会募金事務局	1951	5	・綴
F	22	昭和二十九年度入学学生寄附金申込書綴	熊本大学期成会	1954	1	・綴
F	23	(二十九年四月 入学学生寄附金)	熊本大学期成会	1954	1	・綴。表紙に「学生部学生課取扱分」とあり ・F-24番台：包紙一括。包紙表に「期成会新入学生寄付名簿」とあり ・綴
F	24-1	(新入学生寄附金名簿)	熊本大学期成会	1956	16	・綴、封筒入。封筒に「昭和三十一年度」の朱書きあり。寄付金名簿、寄付願の封書等
F	24-2	(新入学生寄附金名簿)	熊本大学期成会	1958	15	・綴、封筒入。封筒に「昭和三十三年度」の朱書きあり。学部別入学生名簿
F	24-3	(昭和三十四年度入学生 入学金受付簿)	熊本大学期成会	1959	19	・綴。寄付金名簿、封書、寄附申込書
F	24-4	(昭和三十三年度入学生名簿)	熊本大学期成会	1958	7	・綴、封筒入。封筒に「昭和三十三年度」と朱書きあり。学部別入学生名簿
F	24-5	昭和三十五年度入学生名簿	熊本総合大学期成会	1960	5	・綴。入学生寄付金名簿
F	25-1	熊本総合大学臨時費寄附金を以て整備する分	(熊本大学期成会)	1953	1	・第一・第二期計画についてのもの。同内容16点あり
F	25-2	第五期目標額算出案	熊本大学	1953	2	・綴。各市郡別に金額のリスト(募金金額か)
F	25-3	第一表寄附総額表	(熊本大学期成会)	1951	1	・同内容51点あり
F	26	(支出伺・領収証綴)	熊本大学期成会	1948~1949	1	・綴。「現制中学校々舎余裕状況調」(昭和二十三年)として県下各中等教育機関の調書などあり
F	27	昭和二十四年度起 寄附納入通知控	熊本総合大学期成会	1949	1	・綴
F	28	受入伺	(熊本大学期成会)	1960	1	・綴。表紙に「キフ」と鉛筆書あり
F	29	熊本大学新入生寄附金受入簿 昭和35年8月9日起	熊本大学期成会	1960.8	1	・綴
F	30	昭和二十九年度 市民税源泉徴収簿	熊本大学期成会募金事務局	1954	1	・綴
F	31	昭和三十年度 給与所得源泉徴収簿(県民税・市民税)	熊本総合大学期成会	1955	1	・綴
F	32	昭和三十一年度 給与所得源泉徴収簿(県民税・市民税)	熊本総合大学期成会	1956	1	・綴
F	33	昭和二十九年度 給与所得源泉徴収簿	熊本総合大学期成会募金事務局	1954	1	・綴
F	34	昭和二十五年度 給与所得源泉徴集簿	熊本総合大学期成会募金事務局	1950	1	・綴
F	35	昭和二十四年度 給与所得源泉徴集簿	熊本総合大学期成会募金事務局	1949	1	・綴
F	36	桜井会長・渋谷委員記念品領収証	熊本大学期成会	1959	1	・綴
F	37-1	収支決算書	熊本大学期成会	1962.4	1	・綴
F	37-2	手数料(交付金)支払一覧表	熊本大学	1949.1	1	・綴
F	37-3	熊本総合大学期成会募金	熊本大学期成会	1949	1	・綴
F	38	昭和廿七年度 市民税源泉徴収簿	熊本総合大学期成会	1952	1	・綴
F	39	昭和二十八年年度 給与所得源泉徴収簿	熊本総合大学期成会募金事務局	1953	1	・綴
F	40	昭和二十八年年度 市民税源泉徴収簿	熊本総合大学期成会募金事務局	1953	1	・綴
F	41	昭和二十七年年度 給与所得源泉徴収簿	熊本総合大学期成会募金事務局	1952	1	・綴
F	42	昭和廿六年度 市民税源泉徴収簿	熊本大学期成会	1951	1	・綴
F	43	昭和廿四年度以降 募金支出簿	熊本総合大学期成会	1949~	1	・綴
F	44	昭和二十四年度以降 募金支出簿 第二号	熊本総合大学期成会	1949~	1	・綴
F	45	昭和二十四年度以降 募金支出簿 第三号	熊本大学期成会募金事務局	1949~	1	・綴
F	46	第四期 募金目標割当資料 昭和28年3月	熊本大学期成会	1953.3	1	・綴
F	47-1	基準財政需要額 世帯数・学生数	(熊本大学期成会)	年未詳	1	・F-47番台：一括して袋入り。袋に「昭和三十五年度 募金目標(調査書類)」とあり
F	47-2	熊本総合大学創設費 昭和35年度募金目標	熊本大学期成会	1960	1	・同内容3点あり
F	48	各郡町村募金割当目標額表	募金事務局	1949	1	・綴
F	49	昭和二十六年三月 第二回各郡募金割当表	熊本大学期成会	1951	1	・綴
F	50	昭和二十七年年度(第三期) 熊本総合大学創設費各郡内町村目標額	熊本総合大学期成会	1952	1	・綴
F	51	昭和二十八年年度(第四期) 熊本総合大学創設費各郡内町村目標額	熊本総合大学期成会	1953	1	・綴
F	52	第五期 各郡町村目標額	熊本大学期成会募金事務局	1953	1	・綴
F	53	第六期 各郡町村目標額	熊本総合大学期成会	1955	1	・綴
F	54	昭和廿六年度 給与所得源泉徴収簿	熊本総合大学期成会募金事務局	1951	1	・綴
G	1	金銭出納簿	熊本大学期成会	1949~1951	1	
G	2-1	金銭出納帳	熊本大学期成会	1958	1	

箱番号	資料番号	表 題	編著者／発行所	年 代	冊数	備 考
G	2 - 2	(昭和三十二年度熊本大学期成会募 金事務局圣常費実施伺)	熊本大学期成会	1957.3	1	・綴
G	2 - 3	(昭和三十三年度熊本大学期成会募 金事務局圣常費実施伺)	熊本大学期成会	1958.3	1	・綴
G	2 - 4	(昭和三十四年度熊本大学期成会募 金事務局圣常費予算実施伺)	熊本大学期成会	1959.3	1	・綴
G	3 - 1	金銭出納帳	熊本大学期成会	1960	1	
G	3 - 2	(昭和三十五年度熊本大学期成会募 金事務局圣常費伺)	熊本大学期成会	1959.12	1	・綴
G	4 - 1	金銭出納帳	熊本大学期成会	1956~1957	1	
G	4 - 2	(昭和三十一年度熊本大学期成会募 金事務局圣常費予算実施伺)	熊本大学期成会	1956	1	・綴
G	5	金銭出納帳	熊本大学期成会	1957~1958	1	
G	6	金銭出納簿	熊本大学期成会	1949	1	
G	7	金銭出納簿	熊本大学期成会	1949~1954	1	
G	8	金銭出納帳	熊本大学期成会	1959~1960	1	
G	9	金銭出納簿	熊本大学期成会	1950~1961	1	
G	10	金銭出納帳	熊本大学期成会	1953~1958	1	
G	11	金銭出納帳	熊本大学期成会	1957~1961	1	
G	12	金銭出納帳	熊本大学期成会	1952~1953	1	
G	13	金銭出納帳	熊本大学期成会	1961	1	
G	14	経費明細帳	熊本大学期成会	1954~1955	1	
G	15	金銭出納帳	熊本大学期成会	1955~1956	1	
G	16	(熊本大学学生会館落成式典の式辞)	熊本総合大学期成会々長	1954.8	1	・包紙あり
G	17	自昭和三十六年四月至昭和 月次決 算書	熊本総合大学期成会	1961.4	1	・綴
G	18	自昭和三十五年四月至昭和三十六年 三月 月次決算書	熊本総合大学期成会	1960.4~1961.3	1	・綴
G	19	自昭和三十年四月至昭和三十一年三 月 月末決算	熊本総合大学期成会	1955.4~1956.3	1	・綴
G	20	決算月表	熊本総合大学期成会	1953	1	・綴
G	21	自昭和三十三年四月至昭和三十四年 三月 月次決算書	熊本総合大学期成会	1958.4~1959.3	1	・綴
G	22	自昭和三十三年四月至昭和三十三年 三月 月次決算書	熊本総合大学期成会	1957.4~1958.3	1	・綴
G	23	自昭和三十一年四月至昭和三十三年 三月 月末決算	熊本総合大学期成会	1956.4~1957.3	1	・綴
G	24	自昭和三十三年四月至昭和三十五年 三月 月次決算書	熊本総合大学期成会	1959.4~1960.3	1	・綴。裏に「34年度経常」とあり
G	25	決算における準備書類 正	熊本総合大学期成会	1952~1955	1	・綴
G	26 - 1	昭和二十五年管外往復書類綴	熊本大学期成会	1950	1	・G-26番台；包紙一括。包紙に 「海外募金名簿」とあり ・綴。山口県・兵庫県からの大学設 置状況について問い合わせ
G	26 - 2 - 1	昭和二十四年八月起 海外関係書類 綴	熊本総合大学募金事 務局	1949	1	・海外協力者との手紙往復綴
G	26 - 2 - 2	ハワイ観光団熊本県人名簿		年未詳	1	
G	26 - 3	昭和二十五年十月起 海外通信往復 綴	熊本総合大学期成会	1950	1	・海外協力者との手紙往復綴
G	26 - 4	布哇島 寄附芳名	期成会	年未詳	1	・綴
G	26 - 5	一千九百五十三年七月 寄附芳名録	熊本総合大学創設後 援会取組人松永安平	1953.7	1	・綴
G	26 - 6	昭和廿七年七月起 海外関係綴 (三)	熊本大学期成会	1952.7	1	・海外協力者との手紙往復綴
G	26 - 7	(名簿)	(熊本大学期成会)	年未詳	1	・綴。海外居住者名簿か
G	26 - 8	(名簿)	(熊本大学期成会)	年未詳	1	・綴。海外居住者名簿か